

# 納所遺跡Ⅱ

—遺構出土石器・石製品編—

2022年7月

三重県埋蔵文化財センター



## 例 言

- 1 本冊子は、2022年度「三重の文化・歴史を引き継ごう！新しい学びの機会創出事業費」により作成した、文化財情報パンフレットである。本冊子では、1973年10月～1975年12月に三重県津市納所町に所在する納所遺跡で行われた発掘調査において出土した遺物のうち、遺構から出土した石器・石製品について再整理をして報告する。
- 2 本冊子に掲載した遺物の一部については、三重県教育委員会が1980年に刊行した発掘調査報告書『納所遺跡―遺構と遺物―』（以下、「80年報告書」と略）に掲載されている。80年報告書掲載時の遺物番号は、遺物観察表中の備考欄に記載している。
- 3 本冊子で用いている遺構名は、再整理によって付されたものである。再整理による遺構の概要については、三重県埋蔵文化財センターが2012年に刊行した『納所遺跡Ⅰ―遺構・土器・木製品編―』（以下、「前報告書」と略）を参照されたい。なお、遺構形態の略称は下記の通りである。  
SH：竪穴住居 SK：土坑 SD：溝 SX：方形周溝墓・土壇墓 SR：旧河道  
SZ：性格不明遺構 Pit：柱穴・小穴
- 4 遺物の実測図は、基本的に遺構ごとに掲載している。掲載はなるべく遺構番号順になるようにしたが、レイアウトや整理の都合等により前後している部分もある。
- 5 本冊子に掲載した遺物実測図の縮尺は、実物の1/3を基本としている。玉類や石鏃等の小型の遺物については1/1・1/2、大型の遺物については1/4としたものもある。1/3以外の縮尺のものについては、図中の遺物番号の横の（ ）内に縮尺を示した。
- 6 遺物観察表は、以下の要領で記載している。  
No・・・遺物番号。遺物図版で各遺物実測図に付した番号と対応する。  
実測番号・・・実測段階の登録番号。  
器種・・・遺物の器種。  
小地区・・・遺物が出土したグリッド（調査時に設定した小地区。前報告書参照）。  
出土遺構・・・遺物の出土した遺構（前報告書参照）。  
法量／長さ（cm）・・・遺物の長さ。  
法量／幅（cm）・・・遺物の幅。  
法量／厚さ（cm）・・・遺物の高さあるいは厚さ。  
重量（g）・・・遺物の重さ。  
石材・・・使用されている石材の種類。ハイアロクラスタイトは「ハイアロ」と略記。
- 7 本冊子の作成にあたっては、田部剛士氏、堀木真美子氏から有益な御教示をいただいた。
- 8 本冊子の作成は、石井智大、川部浩司、櫻井拓馬、穂積裕昌が行い、本文の執筆には石井・櫻井があたった。執筆分担については各節の文末に記している。
- 9 本冊子のもととなる記録類および出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターで保管している。

## 目次

I	はじめに	1
1	報告の経緯	1
2	報告の方針	1
II	遺構出土の石器・石製品	2
1	資料の概要	2
2	器種分類	4

## 図表目次

第1図	石器組成	7	第16図	石器・石製品実測図(15)	32
第2図	石器・石製品実測図(1)	18	第17図	石器・石製品実測図(16)	33
第3図	石器・石製品実測図(2)	19	第18図	石器・石製品実測図(17)	34
第4図	石器・石製品実測図(3)	20	第19図	石器・石製品実測図(18)	35
第5図	石器・石製品実測図(4)	21	第20図	石器・石製品実測図(19)	36
第6図	石器・石製品実測図(5)	22	第21図	石器・石製品実測図(20)	37
第7図	石器・石製品実測図(6)	23	第22図	石器・石製品実測図(21)	38
第8図	石器・石製品実測図(7)	24	第23図	石器・石製品実測図(22)	39
第9図	石器・石製品実測図(8)	25	第24図	石器・石製品実測図(23)	40
第10図	石器・石製品実測図(9)	26			
第11図	石器・石製品実測図(10)	27			
第12図	石器・石製品実測図(11)	28	第1表	出土石器・石製品の分類	2
第13図	石器・石製品実測図(12)	29	第2表	石材分類表	3
第14図	石器・石製品実測図(13)	30	第3表	点数表	8
第15図	石器・石製品実測図(14)	31	第4表	石器・石製品観察表	9

# I はじめに

## 1 報告の経緯

例言にも記したように、本書は津市納所町に所在する納所遺跡から出土した石器・石製品を再整理して報告を行うものである。

納所遺跡の発掘調査報告書は1980年にすでに刊行されている（以下、「80年報告書」と呼称）<sup>1)</sup>。ただし、調査面積が広く、検出された遺構や出土した遺物が膨大な数量に上ったことから、80年報告書ではそのすべてを報告することができなかった。

しかしながら、納所遺跡は伊勢湾沿岸地域の弥生時代の大規模集落について考える上で重要な遺跡であることが発掘調査以来認識されており、その遺構や遺物の全容に関する報告が長く待たれていた。

そこで、遺構や遺物について順次再整理を行い、80年報告書で扱いきれなかった遺構と遺物のそれぞれについて、補足的な報告を行うこととした。そのうち、遺構と石器、木製品については2012年に『納

所遺跡Ⅰ—遺構・石器・木製品編一』として再整理報告が刊行されている（以下、「前報告書」と呼称）<sup>2)</sup>。再整理に至る経緯については、その中にも詳細に述べられている。

この遺構・石器・木製品の再整理報告に引き続き、石器・石製品の再整理報告を行うために作成したものが本書である。ただし、再整理の作業進行上の都合から、納所遺跡から出土した石器・石製品のすべてについて掲載することはできなかった。そのため本書では、遺構内から出土した石器・石製品およびガラス製品に限って報告を行うこととした。

（石井）

### 註

- 1) 三重県教育委員会『納所遺跡—遺構と遺物—』1980。
- 2) 三重県埋蔵文化財センター『納所遺跡Ⅰ—遺構・石器・木製品編—』2012。

## 2 報告の方針

**資料の抽出** 本書で報告する石器・石製品の数は、491点を数える。すでに80年報告書で報告されているものもあるが、ほとんどは今回の再整理にあたって納所遺跡出土遺物を再点検した結果、新たに報告対象としてピックアップされたものである。

ピックアップの際には、石器・石製品については小片に至るまで綿密にピックアップした。また、剥片類についても可能な限りピックアップを行っている。したがって、発掘調査によって出土し、遺物として持ち帰った石器・石製品については、ほとんどのものを資料化できたと思われる。

遺物の掲載にあたっては、完形に近いものだけに限らず、ピックアップされたものについては小片に至るまで図化するように努めた。石斧の細片など、もとの形状がほとんど推測できないようなものもあるが、破損石器の再加工に関する情報などが得られる可能性を踏まえ、こうしたものも掲載した。

なお、本書で報告する遺物は基本的に前報告書で

報告された遺構から出土した遺物であるが、前報告書では取り扱わなかったピットから出土した遺物についても掲載している。

**報告の方針と方法** 多くの石器・石製品を報告するにあたり、本書では紙幅の関係上、個々の遺物に関して詳述することができなかったため、各遺物の情報については観察表としてまとめ、これを個々の遺物に関する記述に代えている。この観察表の凡例については例言に掲げている。

石器・石製品の実測図は遺構ごとに掲載した。前報告書では遺構を大きく「上層」遺構と「下層」遺構に分けて報告しているため、それに基づき、「上層」遺構出土遺物、「上層」ピット出土遺物、「下層」遺構出土遺物の順に掲載している。

（石井）

## II 遺構出土の石器・石製品

### 1 資料の概要

#### ①遺物の数量と帰属時期

80年報告書では、納所遺跡出土石器の総数は980点といい、このうち、164点が弥生前期に属するとされている。しかし、再整理作業の結果、中期の遺物が相当量混入していることが明らかで、当時の時期別データをそのまま用いることはできない。例えば、「下層」遺構のSR 1004・1005には、近畿地方で中期に盛行する石小刀や打製石剣、中期的な緑泥片岩製石砲丁などが含まれている。しかし、一部の石器には利用石材や形態に古い要素が認められ、前期の資料が一定量含まれるのは間違いない。

遺跡全体では、石砲丁・両刃石斧（太型蛤刃石斧）・柱状片刃石斧（鑿状含む）・扁平片刃石斧・石鎌という、前期の大陸系磨製石器のセットを抽出することができる<sup>1)</sup>。伊勢湾沿岸では、他に鈴鹿市八重垣神社遺跡、春日井市松河戸遺跡などに良好な前期の石器のセットがあり、それらや近畿地方との対比によって納所遺跡の資料を用いる必要があらう。

今回再抽出した遺構出土資料は491点ある。遺構の性格を具体的に知り得る資料は少ないが、SH 185・SH 320から両刃石斧未成品が出土しており、堅穴住居内で石器製作が行われた可能性がある。他には、SD 440から砥石が多数出土しているが、石器や玉の未成品は確認できない。木製品や骨角器など有機質の道具製作に関わるものかもしれない。

この他、包含層・埋積浅谷や表土、表採資料などの遊離資料がコンテナ換算で約40箱あり、図化作業を継続している。

#### ②器種分類の方針

弥生石器の分類には、主に民俗例や使用痕分析に基づく機能的分類と、石器の製作技術に基づく技術的分類の2種類がある。弥生時代研究では、生業や集落間分業の研究に石器組成が多用されており、前者は弥生集落の全国的な比較を行う上で重視され、

後者は縄文系石器が残存する東日本で多用される。どちらにも長・短所があるが、納所遺跡の石器には伊勢湾沿岸にあって西日本の要素が多くみられることから、西日本の弥生石器研究に即した機能的分類が理解しやすい。よって、器種の分類は国立歴史民俗博物館編『農耕開始期の石器組成』<sup>2)</sup>に従い、納所遺跡の実態に即して一部を細分することにした（第1表）。

第1表 出土石器・石製品の分類

大分類	中分類	小分類
武器 狩猟具	石鏃	打製・磨製
	石槍	打製・磨製
	石剣	打製・磨製
漁撈具	浮子	
收穫具	石砲丁	
	石鎌	
除草具	大型石砲丁 粗製割片石器	
土器具	打製石斧	
伐採 加工具	両刃石斧（槌斧）	
	片刃石斧（槌斧）	柱状片刃石斧 扁平片刃石斧 鑿状（小型）片刃石斧
加工具 1	定型刃器	石鎌
		楔形石器 石小刀 スクレイパー
	不定形刃器	UF RF
加工具 2	砥石	
	台石	
	砥石	
	玉磨	
紡織具	紡錘車	
調理具	磨石	
	問石	
	石皿	
祭祀具	環状石斧	
	岩偶	
石器製作 関連遺物	原石	
	石核 剥片	
玉類	石製	勾玉 丸玉 管玉
		小玉
	ガラス製	
その他	上記以外	

### ③ 石器組成の特徴

県内弥生集落の石器組成については、既に報告書および先学の整理があり、畿内的な組成がみられる伊賀地域と、東海的要素が強い伊勢地域の差が指摘されている<sup>3)</sup>。納所遺跡も石廬丁の出土数が少なく、伐採斧・加工斧が多い(磨製石斧9:石廬丁1)という東海的な石器組成をとるが、尾張地域に多い粗製剥片石器がほとんどなく、石廬丁よりも磨製大型石廬丁が卓越するという違いがある。これは、再整理作業によって新たに得られた知見である。

第1図に80年報告書の石器組成と、再整理による遺構出土資料の石器組成を示す。両者の大きな差は石鏃と大型石廬丁の比率で、石鏃は大半が遺構外から出土したことがわかる。また、大型石廬丁は器種の再認定によって、通常石廬丁よりも組成比が高いことが判明した。

磨製石斧(鑿状石斧除く)の構成は、両刃9:柱状片刃1:扁平片刃3となり、両刃石斧の比率が特

に高い。中期後葉の四日市市菟上遺跡、久留信遺跡では、扁平片刃石斧の比率が高く、両刃石斧と扁平片刃石斧がほぼ同数となる。納所遺跡は遺構の消長や土器の数量から、中期中葉に最盛期を迎えると考えられるが、これは上記の石斧組成からも追認されよう。

他に、調理具(磨石・凹石等)や加工具2(敲石・砥石等)の比率が高いことも特筆されよう。

漁撈具は、定型的な石錘はないが、浮子に用いる軽石が一定量出土している。納所遺跡が多様な生業の上に成り立っていたことが、石器の様相からもうかがえる。

### ④ 石器石材の名称と産地

三重県は近畿地方と東海地方の境界に属するが、地質学的にはいわゆる近畿三角帯の東縁にあたり、石材利用の点では近畿地方南部との共通性が高い。このことが石器組成や石器製作技法にも影響していると考えられる。

第2表 石材分類表

産地の位置	成因分類	石材(岩石)名	特徴	納所遺跡の利用状況	
近距離 (20km 圏内)	火成岩	花崗岩・アブライト 流紋岩・安山岩	石英・長石を多く含み、硬質のもの。 礫岩状で、剥片石器には適さない。	磨石・敲石等 敲石等	
	堆積岩	砂岩	泥岩粒を含み、石基はわずみ色、硬質	粗製剥片石器 敲石等の礫石器	
		凝灰質砂岩 泥岩	層理が明瞭で軟質、風化に弱い。 一志層群で産出 従来の「粘板岩・頁岩」の総称。暗灰色 ～黒色のものと白色で層理が明瞭なもの がある。	砥石、石皿、敲石等	
	変成岩	ホルンフェルス 片麻岩	硬質で片理が明瞭なもの。 石英・雲母を多く含み硬質のもの。	石皿等の礫石器 敲石	
中勢地域 (安濃川流域)	火成岩	サスカイト 下呂石	二上山サスカイト 下呂石	剥片石器 小型の剥片石器	
	(火成岩・溶岩 起源の変質岩 含)	ハイアロクラスタイト	海底で噴出した玄武岩質溶岩が破砕され て生じたもの。アクチノ閃石を主要な鉱 物として含む。 ハイアロクラスタイト以外の変塩基性岩 や塩基性の半深成～深成岩を総称。御荷 鈴帯や領家帯のものか。	両刃石斧 片刃石斧	
		塩基性岩 蛇紋岩	超塩基性岩	両刃石斧 玉釧	
	堆積岩	軽石 凝灰岩	海洋漂着物や奄芸層群で産するもの。 用途ごとにそれぞれ岩相が異なる。産地 は複数か。 淡緑色または濃緑色で緻密なもの。	浮子、砥石 砥石(鉄器用?) 環状石斧、岩偶 玉釧	
	北勢・南勢地域 三重県外	変成岩	緑泥片岩	石廬丁には軟質のもの、大型石廬丁には、 雲母が多く硬いものを用いる。	石廬丁 大型石廬丁
			結晶片岩	淡青色を呈し、やや硬いもの。	大型石廬丁
紅糜片岩			赤紫色を呈し、雲母が多く硬いもの。	玉釧	

79年報告書(自然環境編)<sup>4)</sup>では、石器石材の詳細な検討がなされたが、その後、石斧の使用石材に関しては大きく研究が進み、かつて砂岩とされてきた黒〜暗緑色の石材が、北勢地域の青川上流で産するハイアロクラストであることが明らかになった<sup>5)</sup>。この成果を踏まえ、穂積裕昌は伊勢湾沿岸における石器石材の利用状況を総括している<sup>6)</sup>。

本書ではこれらをもとに、若干の補足を加えて用いることにした(第2表)。なお、石材名は堀木真美子氏(愛知県埋蔵文化財センター)に代表的な資料の肉眼鑑定を受け、報告担当者がその結果を他の遺物に適用した。また、一部の石器は、石材同定(破壊分析)が行われており<sup>7)</sup>、この分析番号を遺物観察表中に示した。器種ごとの使用石材比率については、器種分類の個別解説で適宜触れることにしたい。(櫻井)

## 2 器種分類

以下、器種ごとに特徴を記す。転用されたものは、可能な限り転用前の器種に含めた。磨石・砥石・石皿・台石・敲石・凹石などの礫石器は、複数種の使用痕が認められるものが多く、器種名は代表的な機能によった。各器種の出土点数は、使用石材とともに第3表に示した。

### ①武器・狩猟具

打製・磨製の尖頭器である。石槍と石剣は長さにより便宜的に区分する。

**石鏃** 報告分は29点あり、すべて打製である。平面形態は、無茎(凹基・平基・円基)と有茎があるが、厚さや有茎・無茎を問わず主要剥離面が中央に残存し、鋸をもつ厚手の石鏃は少ない。また、愛知県朝日遺跡に多い五角形長身鏃はない<sup>1)</sup>。これは、下呂石の利用率が低いことが要因であろう。石材比はサヌカイト93%(27点)、下呂石7%(2点)であり、圧倒的にサヌカイトが多い<sup>2)</sup>。

**石槍** 長さ5〜14cmの中型尖頭器で、槍のほか、短剣や戈が含まれよう。すべて磨製で、446・480は基部に鋸がない。

**石剣** 長さ15cm以上の大型尖頭器が該当するが、全長が判明するものではなく、基部幅や厚さにより分

### 註

- 1) 櫻井拓馬「伊勢湾沿岸における弥生時代片刃石斧製作技法の変遷」『Wie history』21 三重歴史文化研究会 2012。
- 2) 国立歴史民俗博物館編『農耕開始期の石器組成』1997。
- 3) 上村安生「三重県の石器組成」『農耕開始期の石器組成』国立歴史民俗博物館 1997。
- 4) 三重県教育委員会『納所遺跡—その自然環境と自然遺物—』1979。
- 5) 堀木真美子「石器石材の分析」『宮山遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 1999。
- 6) 穂積裕昌「生産と流通」『中部の弥生時代研究』同刊行委員会 2009。
- 7) 註5前掲。

類した。サヌカイト製の389は基部片で、側縁を敲打して刃を潰している。

### ②漁撈具

**浮子** 軽石の自然石である。遺構からは1点(57)だが、包含層などの遊離資料ではコンテナ1箱分出土している。紐繫縛用の溝をもつものもあるが、大半は特に加工をしていない。

### ③収穫具

**石庖丁** 平面形態は近畿地方南部に通有の直線刃半月形で、石材は緑泥片岩、ホルンフェルス、泥岩などが用いられる。小片では大型石庖丁との識別が困難なものも多いが、石材の硬軟や幅、厚さなどから判断した。なお、遊離資料には刃部が偏片刃で、灰白色の珪質泥岩を用いる例があり、弥生前期のものと考えられる。

未成品は確実なものがなく、集落内での生産は低調であったろう。三重県内では、片岩産地に近い南伊勢地域で大型石庖丁の出土例が多く、石材産地付近での生産が疑われるが、通常石庖丁は大和・伊賀を経て搬入された可能性も考えておくべきである。



**石鏃** 結晶片岩製のものが1点ある(6)。弥生前期に属するものであろう。

#### ④除草具

**大型石庖丁** 磨製の大型直縁刃石器<sup>3)</sup>である。全形の判明する例はごく僅かだが、S D 106に半月形(内湾刃)のものがある(84)。石材はすべて外帯産の片岩(緑泥片岩・結晶片岩)を用いるが、石庖丁の石材に比べて硬く、雲母を多く含む。

再穿孔により紐孔を複数もつもの、二次加工痕(分割や再研磨)のあるものが多い。分割は、擦り切り技法によるもの(329)、孔を支点として半截したもの(367)がある。91は剥離を加えて再生したものである。こうした再生品が穂摘具の代替となった可能性も想定すべきで、今後、使用痕分析を行う必要があろう。

**粗製剥片石器** 川原石の円礫から得られる貝殻状剥片を用いた刃器である<sup>4)</sup>。今回報告分で3点と出土量はごく少ないうえ、使用痕光沢が発達するものはない。

#### ⑤土掘具

**打製石斧(石鏃)** 泥岩製の2点、緑泥片岩製の1点ある。390はS R 1004 から出土した完形品で、刃縁に直交する線状痕が顕著である。443は短冊形の石器だが、下端に線状痕が認められる。これも土掘具に含められるかもしれない。

#### ⑥伐採・加工具

**両刃石斧** 伐採用の縦斧で、石材は大半がハイアロクラスタイトを用いる。伊勢湾沿岸で出土するこの種の石斧は、西日本の太型蛤刃石斧とは基部形態や断面形が異なるため、「両刃石斧」と称されているが<sup>5)</sup>、納所遺跡には断面楕円形で基部が幅広い、典型的な太型蛤刃石斧(391)がある。また、三河・尾張から北勢地域の両刃石斧は、仕上げ研磨を省略する例が多いが(研磨省略型)、納所遺跡では研磨が貫徹された例が圧倒的に多い(全面研磨型)<sup>6)</sup>。納所遺跡は伊勢湾の西岸にあり、前期の石器を含むことから、近畿地方の太型蛤刃石斧の影響が顕著に表れるのであろう。

ハイアロクラスタイトは弥生前期から用いられることが知られており<sup>7)</sup>、石材や形態から両刃石斧の時期差を抽出することは難しい。

両刃石斧の未成品は小型に限られ、数量は少ないが、剥離～敲打段階(54・78・392)の各種がある。また、遊離資料では原石も出土している。上述の仕上げ研磨の地域性から、完成品に近い段階で搬入され、集落内で斧柄に合わせて仕上げられたと推測されるが、石材や未成品の形態や大きさは様々であった。

両刃石斧は片刃石斧や敲石(38)に転用されている。朝日遺跡では片刃石斧への転用時に擦り切り技法が用いられるが<sup>8)</sup>、納所遺跡には類例がない。374のように剥片の一部に刃を研ぎだした粗製品が目立つ。

**片刃石斧** 大半がハイアロクラスタイト製であるが、層相が明瞭な堆積岩を用い、主面に石目を直交させる例(83)は前期のものであろう。遊離資料には同石材の扁平片刃石斧もある。

柱状片刃石斧は挟りがあり、基部が半円形となるもの(278)は前期に遡りうるが、伊勢湾沿岸では中期にも類似のものがあり、時期の識別は困難である。完形品の69も、幅が狭く断面が逆台形を呈する、挟り付近に最大厚がくるなど、型式学的には古い要素をもつ(下條信行氏分類のC型式<sup>9)</sup>)。

扁平片刃石斧は長幅比が2:1から1.5:1ほどで、形態的バラエティがある。調整剥離痕が大きく残るものが目立つ。

片刃石斧の未成品は、剥離～敲打段階の各種が出土しており、両刃石斧の様相とよく似る。

#### ⑦加工具

**石鏃** 棒状のもの、水滴状のものがあり、頭部と錐部の境界が明瞭なものは少ない。石材はサヌカイトが多く、下呂石は補助的に用いられる。

**楔形石器** 数量はごく少ない。両極技法の痕跡を残す敲石・台石が少ないことも符号する。

**石小刀** 383は長さ12cmの優品で、両面とも調整剥離は細かく、中央に鑿を作り出している。

**スクレイパー** いずれもサイドスクレイパーで、横長剥片の長片に剥離を加え、平面形が三角形ないし

半円形を呈するもの。187は背部が有肩形となる珍しい例である。

**不定形刃器** R F (二次加工ある剥片) が若干あるのみで、不定形刃器の利用は低調である。

**砥石** 砥石の大半は砂岩を用いるが、中でも粗粒の凝灰質砂岩が多い。JIS 研磨剤の規格では #80 ~ 120 番に相当する粗・中目のもので、玉用の筋砥石もこれを用いている。一方、極細目の砥石(JIS#1000 ~ 2000 番相当)は泥岩や凝灰岩を用いており、砥石目は明確に2極化する<sup>10)</sup>。40は鉄器による加工痕(押しノミ?)をもつもので、他に未報告資料にもノミの加工痕を持つものがある。また、鉄器用や管玉用砥石として軽石が用いられる例があり、本遺跡でも軽石が管玉用砥石に用いられている。

**敲石** 拳大礫の縁辺、または中央に敲打痕が集中するもの。石材には硬度の高い砂岩やアブライト、花崗岩の円礫を用いる。磨製石斧を転用したもの(350・471)は楕状を呈する。敲打痕は点状と、両極打法に伴う線状の2種があるが、後者の例は少ない。

**玉鏃** 紅崖片岩の薄い板材を玉鏃に含めたが、使用痕が発達するものはみられなかった。

## ⑧ 紡織具

**紡錘車** 円盤の中央に孔を開けたもの。つくりの丁寧な292を除けば、いずれも緑泥片岩製石廬丁ないし大型石廬丁の転用品であろう。

## ⑨ 調理具

**磨石** 川原石などの円礫を用いており、敲石を兼ねる例が大半である。

**凹石** 敲打の集中によって明確な凹みを持つものである。石皿に比べて可撓性の高い、長さ10cm前後の扁平礫が用いられている。

多くの遺構から凹石が出土していることは、納所遺跡の大きな特徴といえるかもしれない。

**石皿** 磨耗により中央がわずかに凹みをもつ大型皿状の石器で、縁辺は特に加工されていない。砥石との区別は難しいが、側面や小口に使用痕のあるもの、打割で方柱状となるものは砥石に含めている。16・112はいずれも中央に敲打痕が認められる。

## ⑩ 祭祀具

**環状石斧** 3点ある。石材は緑色凝灰岩や多孔質の火山岩が用いられており、搬入品の可能性が高い。5・445はやや薄手のつくりである。

県内では鈴鹿市八重垣神社遺跡<sup>11)</sup>に前期の例がある。また、愛知県麻生田大橋遺跡<sup>12)</sup>や朝日遺跡に多く認められる。縄文晩期に多頭石斧を多用する三河や飛騨地域の影響が及んだものであろうか。128は未成品で、扁平な礫の縁辺に剥離を加えている。

**岩偶(岩板)** 80年報告書では石製垂飾とされたもの(455)で、麻生田大橋遺跡の岩板<sup>13)</sup>や、縄文後・晩期の石刀頭部の意匠によく似ている。石材は白色の凝灰岩を用い、3条ないし5条単位の線刻、穿孔痕がある。打製石斧や環状石斧と同じく、条痕文化圏の影響が考えられよう。

## ⑪ 玉類

石製品は勾玉・管玉・白玉が11点出土している。管玉はいずれも緑色凝灰岩で、色調は淡緑色と濃緑色<sup>10)</sup>の二種がある。穿孔前・塗上の管玉未成品(373)や筋目砥石(417)があり、集落内で玉生産がなされたことは確実である。しかし、研磨前の未成品や剥片などは確認できない。既往の調査範囲では小規模生産や一部工程のみに限られていたと推測される。

ガラス小玉は2点出土している。

## ⑫ 打製石器製作関連資料

ササカイト・下呂石の原石・剥片などから、石器生産や石材流通の様相を見ておきたい。

**ササカイト** ササカイト原石は、自然面が筋・爪形・凸凹タイプの各種がある。筋・爪形・凸凹は、同一資料で共存するものがあり、納所遺跡の資料だけでは二上山の細かな採取地まで推定できないが、大阪府石川流域に多いという平坦タイプ<sup>10)</sup>はみられない。

388は長さ約8cm、厚さ2cmの石核で、原石の形状・法量が判明する。またスクレイパーなど(44・346)は背部や側面に自然面を残しており、388と

ほぼ同大の角礫が用いられたことがわかる。一方で、長さ10cmを超える板状剥片や石核は認められないことから、石小刀や打製石剣といった大型石器は、製品そのものが搬入された可能性が高い。

**下呂石** 下呂石製の石器は、石鏃・石錐などの小型石器に限られている。遊離資料には川原石の自然面を残す石核があり、主に木曾川中下流域で得られるという直径3～5cmの円礫が用いられたと考えられる。

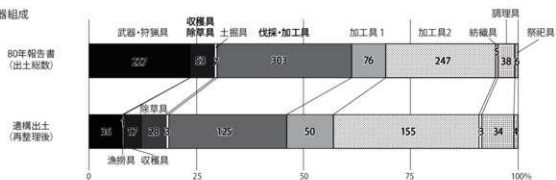
(櫻井)

#### 註

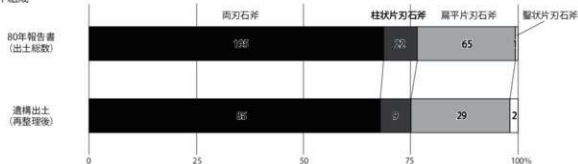
- 1) 愛知県埋蔵文化財センター『朝日遺跡Ⅳ』1993。なお、五角形長身鏃は漁具(刺突具)の可能性も指摘され、朝日遺跡との生業差を反映している可能性がある。
- 2) 伊勢湾西岸の石鏃形態・石材は、石黒立人氏の詳細な分析がある(石黒立人「伊勢湾周辺における弥生時代打製石器研究の現状と評価」『考古学フォーラム』19 愛知考古学談話会 2008)。
- 3) 斎野裕彦「農具-石盾丁・大型直縁刃石器・石鏃」『考古資料大観』9 小学館 2002。
- 4) 註1 前掲。

- 5) 註1 前掲。
- 6) 櫻井拓馬「伊勢湾沿岸における弥生時代磨製石斧の製作技法とその評価」『研究紀要』20 三重県埋蔵文化財センター 2011。
- 7) 穂積裕昌「生産と流通」『中部の弥生時代研究』同刊行委員会 2009。
- 8) 註1 前掲。
- 9) 下條信行「住炊片刃石斧について」『伊達先生古希記念 古文化論叢』同刊行会 1997。
- 10) 櫻井拓馬「鉄器加工痕を有する砥石～弥生時代後期以降の砥石の変化に関する予察～」『研究紀要』三重県埋蔵文化財センター 2013。
- 11) 鈴鹿市考古博物館「八重垣神社遺跡(第6次)」2010。
- 12) 愛知県埋蔵文化財センター『麻生田大橋遺跡』1991。
- 13) 註12 前掲。
- 14) 80年報告書では、石材名を碧玉としているが、ここではいずれも緑色凝灰岩とした。鉱物名としての碧玉は不適当であると考えたからである。
- 15) 塚田良道「弥生時代における二上山サヌカイトの獲得と石器生産」『古代学研究』122 古代学研究会 1990。

#### 石器組成



#### 石斧組成



第1図 石器組成

第3表 点数表

打製石鏃	花崗岩	アブ	流紋岩	安山岩	チャート	砂岩	凝灰質	珉岩	モルブス	片麻岩	カヌ	下呂石	ハイアロ	珉質性	蛇紋岩	緑石	凝灰岩	緑色	緑泥	結晶	紅塵	その他	点数
打製石鏃		ライト							2		27	2											29
打製石槍										1	1												1
磨製石槍								2															2
打製石劍								2		1	1												1
磨製石劍										1	1												3
浮子															1								1
石盾丁									2														17
石鏃																							1
大型石盾丁							2																1
和製銅片石鏡																							24
打製石斧							3																3
両刃石斧																							3
柱状片刃石斧							1																865
扁片刃石斧							5		2														9
鑿状片刃石斧																							29
石鏃										8	3												2
磨製石槍																							1
石小刀																							1
スタレイハル										2	1												2
RF										15	1												17
敲石	1	2	1	1	1	18	2	1		17	2												19
台石						1																	29
敲石	1	2		1	23	86	4	2	1														1
玉鏃																							123
新降車																							2
磨石	1	1																					3
叩石	2	1	1	1	3	7	3	1															15
石風						1			2														17
磨石																							2
磨石																							2
岩鏡																							3
岩鏡																							1
均玉																							1
白玉																							3
管玉																							1
ガラス小玉																							7
磨石										4													2
石槌																							1
網片										12	1												5
その他	5	5	1	2	3	58	98	19	10	3	88	10	104	14	1	6	9	32	16	2	4		491

第4表 石器・石製品観察表

№	実測番号	器種	小地区	出土 遺構	法量 (cm)			重量 (g)	石材	特記事項
					長さ	幅	厚さ			
1	1058-01	両月石斧	J-129	SR1	8.8	7.0	3.8	290.00	ハイアロ	二次加工 (敲打)
2	1058-02	両月石斧	J-129	SR1	10.2	5.9	3.6	370.00	ハイアロ	
3	1056-02	両石	J-129	SR1	8.0	6.2	2.6	221.96	片麻岩	
4	1097-03	両月石斧	J-124	SR2	9.0	6.5	4.3	360.00	ハイアロ	石材同定試料採取 (3FN0086)
5	1095-04	環状石斧	N-125	SR2	9.0	8.5	1.5	151.62	凝灰岩	
6	R295	石鎌	M-126	SR2	7.2	2.8	0.8	27.40	結晶片岩	
7	1003-04	敲石	L-126	SR2	10.7	9.3	3.9	550.00	砂岩	
8	1004-02	両月石斧	L-126	SR2	6.0	4.3	2.8	126.00	ハイアロ	
9	1004-04	勾玉	M-126	SR2	3.5	2.2	0.5	5.40	緑泥片岩	
10	1058-03	両月石斧	M-122	SR2・3・4	7.5	6.7	3.8	173.38	ハイアロ	
11	1060-03	両月石斧	M-123	SR2・4	9.3	5.5	3.5	224.84	ハイアロ	
12	1097-04	大型石磨丁	M-122	SR2・4	6.6	4.8	0.7	34.46	緑泥片岩	小片
13	1058-04	両月石斧	M-123	SR2・4	7.8	6.2	2.8	187.50	ハイアロ	二次加工 (剝離)
14	1059-01	両石	M-123	SR2・4	9.1	4.5	4.0	209.64	塩基性岩	
15	1059-02	両石	M-123	SR2・4	11.8	5.5	2.8	246.64	片麻岩	
16	1056-01	石皿	M-123	SR2・4	13.9	13.8	1.8	510.00	塩基性岩	敲打痕あり、台石?
17	1057-01	両石	M-122	SR2・4	10.9	11.2	5.0	900.00	花園岩	
18	1098-02	扁平片月石斧	M-121	SR3	4.7	5.0	2.0	80.06	ハイアロ	二次加工 (研磨)、石材同定 (3FN0090)
19	1059-04	両月石斧	M-121	SR3	13.1	6.5	4.0	570.00	ハイアロ	
20	1003-03	砥石	N-121	SR3	7.9	5.7	2.6	136.00	凝灰質砂岩	被熱
21	1098-01	石磨丁	M-121	SR3	5.4	3.6	0.7	17.63	緑泥片岩	未成品 (研磨)
22	1060-01	両月石斧	M-121	SR3	10.2	6.4	4.0	390.00	ハイアロ	
23	1003-01	砥石	M-119	SR3・4 上面	10.5	10.1	1.5	200.00	凝灰質砂岩	上面出土
24	1004-03	剥片	K-124	SR4	2.6	5.5	0.4	6.10	サヌカイト	
25	1001-02	両月石斧	L-122	SR4	8.2	3.5	3.6	148.00	砂岩	
26	1056-03	両月石斧	I-126	SR4	5.8	6.1	2.5	117.88	ハイアロ	二次加工 (剝離・敲打)
27	1004-01	敲石	L-122	SR4	11.0	4.8	4.6	370.00	砂岩	
28	1002-03	砥石	L-122	SR4	10.2	6.4	1.9	150.00	凝灰質砂岩	
29	1002-01	砥石	K-123	SR4	8.9	8.5	3.8	282.00	凝灰質砂岩	
30	1002-02	砥石	L-123	SR4	6.5	4.7	3.0	110.00	凝灰質砂岩	
31	1059-03	敲石	M-122	SR4	6.5	7.5	3.1	210.59	砂岩	
32	1002-04	砥石	L-123	SR4	10.0	10.3	3.6	378.00	凝灰質砂岩	
33	1003-02	砥石	I-124	SR4	5.9	5.4	3.1	116.00	砂岩	被熱
34	1001-01	両石	L-123	SR4	13.8	10.9	6.3	1075.00	砂岩	
35	1060-02	敲石	M-120	SR4	13.0	6.5	5.0	725.00	砂岩	
36	1098-03	石鎌	M-120	SR4-2	4.2	2.4	0.8	6.08	サヌカイト	完形
37	1057-02	両月石斧	K-122	SR4-2	5.2	5.5	3.0	144.68	ハイアロ	
38	1005-01	両月石斧	K-122	SR4-2	11.8	8.4	4.5	850.00	塩基性岩	二次加工 (敲打)
39	1005-03	砥石	J-123	SR4-2	11.6	7.5	2.6	222.90	凝灰質砂岩	
40	1005-02	砥石	K-122	SR4-2	5.9	3.9	2.4	95.10	凝灰岩	鉄器による加工痕
41	1006-02	扁平片月石斧	K-122	SR4-2	5.5	6.2	1.4	73.90	泥岩	
42	1005-04	磨石	K-121	SR4-2	5.8	7.2	4.0	230.00	砂岩	
43	1104-02	大型石磨丁	K-117	SD9	3.0	5.0	0.8	15.62	結晶片岩	小片
44	1104-01	スクレイパー	I-114	SD9	7.7	8.7	1.9	136.53	サヌカイト	
45	1061-01	敲石	J-118	SD9	12.9	11.6	8.8	1625.00	流紋岩	磨石としても使用
46	1006-03	R F	H-106	SR21	2.9	4.3	1.0	13.00	サヌカイト	
47	1090-08	管玉		SR21	0.9	0.3	0.1	0.09	緑色凝灰岩	1980年報告 (図版 49-12)
48	R357	打製石礫	I-112	SH11	3.2	1.4	0.4	-	サヌカイト	有茎、1980年報告 (報 25)
49	1062-01	両月石斧	I-112	SH11	4.3	3.1	0.6	8.55	ハイアロ	小片
50	1105-01	敲石	J-108	SK43	6.2	5.0	4.8	212.22	安山岩	1980年報告 (図版 48上-4)
51	1006-04	砥石	K-109	SK65	5.6	7.0	3.1	129.70	凝灰質砂岩	
52	1062-05	砥石	M-113	SK96	6.4	6.9	2.2	104.62	凝灰質砂岩	敲石としても使用
53	1062-02	扁平片月石斧	J-116	SK24	8.4	3.4	2.0	92.07	ハイアロ	小片
54	1062-04	両月石斧	M-113	SK94	12.5	6.5	5.5	650.00	ハイアロ	未成品 (敲打)
55	1008-03	大型石磨丁	M-111	SK103	6.3	10.7	1.2	112.80	結晶片岩	未成品 (剝離)
56	1006-05	剥片	M-112	SK100	8.0	4.3	0.8	18.90	サヌカイト	
57	67-01	浮子	M-117	SK84	11.0	9.4	7.4	218.55	軽石	
58	R355	打製石礫	J-114	SR28	2.0	1.4	0.4	0.80	サヌカイト	凹基

No	実測番号	器種	小地区	出土 遺構	法量 (cm)			重量 (g)	石材	特記事項
					長さ	幅	厚さ			
59	1062-03	両刃石斧	J-114	SD28	5.0	3.6	3.4	54.52	ハイアロ	小片
60	1064-02	両刃石斧	M-106	SD106 上層	8.4	5.5	2.9	182.82	ハイアロ	二次加工 (敲打)
61	1020-01	剥片		SD106	4.8	6.4	1.3	34.00	サヌカイト	
62	R361	打製石鏃	M-107	SD106	3.5	1.3	0.4	2.00	サヌカイト	有茎、完形、1980年報告 (報24)
63	R488	打製石鏃	I-97	SD106	4.7	1.2	0.5	2.40	サヌカイト	柳葉、完形、1980年報告 (報29)
64	1020-04	スクレイパー	L-64	SD106	3.6	5.3	0.9	17.10	下呂石	
65	1020-06	R F	M-66	SD106	3.6	2.1	0.7	5.60	サヌカイト	
66	1020-03	R F	J-98	SD106	3.1	6.0	1.1	15.60	下呂石	
67	1020-02	磨製石剣	M-107	SD106	3.4	3.2	1.4	12.00	サヌカイト	研磨、小片
68	1020-05	R F	L-100	SD106	2.7	4.4	1.1	12.50	下呂石	
69	R006	柱状片刃石斧	J-98	SD106	18.2	5.0	2.8	510.00	塩基性岩	使用痕 (光沢) 顕著、1980年報告 (報10)
70	1021-03	扁平片刃石斧	M-66	SD106	6.6	2.3	1.9	35.00	ハイアロ	大型
71	1063-02	扁平片刃石斧	M-109	SD106	6.9	4.3	1.7	100.13	泥岩	
72	1090-04	管玉	M-108	SD106	1.8	0.5	0.2	0.62	緑色凝灰岩	1980年報告 (図版49-5)
73	1104-03	両刃石斧	K-100	SD106	10.7	6.7	4.2	530.00	ハイアロ	石材同定 (3FN0005)
74	1021-01	両刃石斧	M-66	SD106	10.6	6.0	4.0	290.00	ハイアロ	二次加工 (敲打)
75	1063-05	両刃石斧	L-64	SD106	7.3	6.0	3.2	162.14	砂岩	
76	1021-05	両刃石斧	K-100	SD106	5.3	2.5	1.5	28.60	ハイアロ	小片
77	1021-04	両刃石斧	K-99	SD106	5.1	3.6	2.1	74.00	ハイアロ	小片
78	1063-01	両刃石斧	M-108	SD106	9.5	6.5	3.8	320.00	ハイアロ	未成品 (敲打)
79	1021-06	扁平片刃石斧	M-66	SD106	9.3	5.0	1.4	97.00	ハイアロ	
80	1022-03	粗製剥片石器	L-65	SD106	9.1	4.8	0.8	39.90	泥岩	小片
81	1021-02	両刃石斧	L-65	SD106	9.1	4.7	3.1	144.70	ハイアロ	
82	1023-02	両刃石斧	K-100	SD106	7.0	6.9	3.6	220.80	塩基性岩	
83	1020-07	柱状片刃石斧	N-84	SD106	5.6	1.6	1.0	13.90	泥岩 (注貫)	
84	R282	大型石廬丁	L-64	SD106	11.8	6.0	0.6	57.80	緑泥片岩	1980年報告 (報7)
85	1025-01	砥石	K-100	SD106	7.6	4.7	1.6	66.30	凝灰質砂岩	
86	1026-04	砥石	K-100 * 101	SD106	11.6	10.4	1.7	208.00	凝灰質砂岩	
87	1022-01	大型石廬丁	L-65	SD106	6.8	12.3	0.7	58.90	結晶片岩	
88	1022-02	大型石廬丁	I-97	SD106	8.4	9.2	1.1	121.50	結晶片岩	
89	1025-04	砥石	K-100 * 101	SD106	6.3	5.6	2.2	143.60	凝灰質砂岩	
90	1026-01	砥石	N-67	SD106	7.9	5.3	2.9	136.90	凝灰質砂岩	被熱
91	1104-04	大型石廬丁	L-113	SD106	5.4	10.1	1.1	55.29	緑泥片岩	二次加工 (剥離)
92	1024-01	砥石	J-99	SD106	9.8	9.2	1.8	177.60	凝灰質砂岩	
93	1027-01	砥石		SD106	10.1	8.5	7.0	484.70	凝灰質砂岩	
94	1024-03	砥石	K-100	SD106	6.8	8.4	1.4	117.20	凝灰質砂岩	
95	1025-03	砥石	K-100	SD106	7.1	4.8	2.1	78.40	凝灰質砂岩	
96	1026-02	砥石	L-110	SD106	7.2	4.3	3.7	111.60	凝灰質砂岩	
97	1024-02	砥石	K-100	SD106	6.4	6.0	1.8	86.80	凝灰質砂岩	
98	1027-02	砥石		SD106	6.0	6.0	5.0	162.30	凝灰質砂岩	
99	1025-02	砥石	L-65	SD106	7.4	9.2	2.2	153.30	凝灰質砂岩	
100	1025-05	砥石	J-98	SD106	4.2	4.4	7.1	152.20	凝灰質砂岩	
101	1025-06	砥石	J-98	SD106	6.0	3.9	3.5	61.00	凝灰質砂岩	
102	1027-03	砥石	J-98	SD106	6.0	5.9	4.1	110.00	凝灰質砂岩	被熱
103	1026-03	砥石	L-64	SD106	3.8	5.7	5.6	70.90	泥岩	
104	1024-04	砥石	L-100 * 101	SD106	6.0	5.6	1.4	67.30	凝灰質砂岩	
105	1024-05	磨石	J-98	SD106	6.6	4.4	2.5	96.20	凝灰質砂岩	
106	1026-05	砥石	L-65	SD106	9.2	9.9	3.4	356.00	凝灰質砂岩	被熱
107	1023-01	砥石	I-96	SD106	11.6	7.2	2.7	256.00	砂岩	
108	1063-04	砥石	K-101	SD106	5.6	5.5	4.0	163.00	砂岩	
109	1022-04	砥石	J-97	SD106	5.3	6.0	5.2	218.10	砂岩	
110	1063-03	凹石	M-109	SD106	7.5	5.3	3.8	229.94	凝灰質砂岩	砥石としても使用
111	1023-03	砥石	L-65	SD106	5.4	4.7	2.0	83.50	砂岩	
112	1106-01	石皿	M-110	SD106	22.3	17.8	4.2	1860.00	砂岩	筋状の溝複数あり、筋砥石としても使用?、1980年報告 (図版48上-7)

№	実測番号	器種	小地区	出土 遺構	法量 (cm)			重量 (g)	石材	特記事項
					長さ	幅	厚さ			
113	1064-01	両刃石斧	M-108	SD106 下層	9.0	6.0	3.7	370.00	ハイアロ	
114	1007-03	剥片	H-104	SK126	2.7	4.4	0.5	6.20	サヌカイト	
115	R281	石廬丁	M-108	SK109	10.0	4.9	0.6	42.50	緑泥片岩	再穿孔、1980年報告(図版45上)
116	1006-07	砥石	M-108	SK109	6.4	3.3	2.1	57.70	砂岩	
117	1006-06	剥片	M-108	SK109	1.6	3.9	0.4	2.80	サヌカイト	
118	1090-016	ガラス小玉	M-108	SK109	0.3	0.4	0.2	0.03	ガラス	水色、1980年報告(図版49-8)
119	1064-03	扁平片刃石斧	G-105・ 106	SZ119	4.5	4.0	1.1	24.33	ハイアロ	
120	1065-01	扁平片刃石斧	G-104	SK121	4.3	5.4	1.0	34.83	ハイアロ	
121	1007-01	大型石廬丁	G-106	SK118	10.2	7.8	0.6	87.60	結晶片岩	
122	1064-04	砥石	G-104	SK120	9.5	6.0	2.7	131.12	凝灰質砂岩	
123	1007-02	砥石	G-98	SK123	9.4	6.0	2.8	183.50	凝灰質砂岩	
124	1099-05	石鏃	H-105	SK124	2.5	1.4	0.7	2.72	サヌカイト	1980年報告(図版47上-8)
125	1099-04	扁平片刃石斧	H-106	SK124	3.5	3.0	0.8	14.61	ハイアロ	
126	1007-04	剥片	H-101	SD128	3.1	4.1	0.4	4.50	サヌカイト	
127	1007-06	砥石	H-101	SD128	5.5	5.4	3.6	87.20	凝灰質砂岩	
128	1008-01	環状石斧	H-101	SD128	6.2	9.7	2.7	197.60	塩基性岩	未成品(敲打)
129	1007-05	石鏃	H-101	SD128	3.1	4.7	2.9	42.50	サヌカイト	
130	1089-02	砥石	S-61・62	SK130	9.1	6.8	3.8	310.00	凝灰質砂岩	
131	1008-02	両刃石斧	H-98	SK141	4.5	6.1	3.7	158.90	ハイアロ	小片
132	1066-01	凹石	H-98	SK137	9.1	6.3	5.6	500.00	安山岩	
133	R362	打製石鏃	H-100	SD132	2.9	1.8	0.3	1.50	下呂石	凹基
134	R356	打製石鏃	H-100	SK134	2.6	1.8	0.4	2.50	サヌカイト	凹基
135	1099-07	鑿状片刃石斧	H-99	SK135	4.5	1.2	0.8	8.10	ハイアロ	完形
136	1099-06	石廬丁	H-99	SK135	2.6	3.7	0.6	7.40	緑泥片岩	小片
137	1065-02	両刃石斧	H-100	SK133	12.7	4.3	3.2	218.79	ハイアロ	
138	1009-01	R F	H-97	SK142	1.5	2.6	0.2	0.80	サヌカイト	
139	1009-02	砥石	H-96	SK144	9.5	8.6	3.1	258.00	凝灰質砂岩	
140	1009-03	砥石	H-96	SK144	5.3	4.1	2.0	50.80	凝灰質砂岩	被熱?
141	1066-02	凹石	H-97	SK160	12.2	6.4	3.7	370.00	砂岩	被熱
142	1067-01	両刃石斧	J-104	SK143	3.8	2.9	2.5	37.00	ハイアロ	小片
143	1009-04	石鏃	I-100	SK151	6.5	6.2	4.5	180.60	チャート	
144	1010-03	砥石	K-104	SK174	6.1	4.9	2.7	141.00	泥岩	
145	1010-05	砥石	K-103	SK175	4.5	6.1	1.4	53.80	泥岩	
146	1009-05	磨石	J-106	SK156	8.2	6.0	2.2	166.90	塩基性岩	
147	1010-01	砥石	J-100	SK164	15.2	9.2	2.0	330.00	ホルンブルス	被熱
148	1010-02	砥石	K-106	SK172	5.6	3.5	3.6	70.70	凝灰質砂岩	
149	R351	打製石鏃	L-96	SH185	3.9	1.2	0.5	2.30	サヌカイト	柳葉、完形
150	R363	打製石鏃	L-96	SH185	2.8	2.1	0.6	3.50	サヌカイト	凹基?
151	1100-05	R F	K-95	SH185	1.9	4.3	0.9	6.20	サヌカイト	
152	1100-03	石小刀		SH185	4.7	3.6	1.7	25.96	サヌカイト	
153	1067-03	石鏃	K-96	SH185	4.7	2.6	1.0	9.99	サヌカイト	
154	1100-04	石鏃	K-95	SH185	4.1	1.9	0.7	5.31	サヌカイト	
155	1138-02	両刃石斧	M-95	SH185	8.8	4.8	2.9	170.00	ハイアロ	二次加工(敲打)
156	1100-02	大型石廬丁	K-95	SH185	6.5	7.0	0.9	64.74	緑泥片岩	二次加工(研磨、紡錘車か)、 1980年報告(図版47下)
157	1067-04	石廬丁	K-96	SH185	4.3	6.7	0.8	28.68	緑泥片岩	
158	1100-01	両刃石斧		SH185	9.3	6.7	3.3	244.76	ハイアロ	再加工により小型化
159	1067-02	両刃石斧	K-96	SH185	4.0	4.3	3.8	100.41	ハイアロ	石材同定試料採取(3FN0248)
160	1011-02	砥石	L-96	SH185	13.0	8.0	2.4	274.00	凝灰質砂岩	小片
161	1011-01	砥石	K-96	SH185	15.0	8.6	2.0	270.00	凝灰質砂岩	
162	1144-03	両刃石斧		SH185	11.9	6.3	4.2	424.00	ハイアロ	
163	1067-05	両刃石斧	L・M-96	SH185	6.2	5.4	3.3	135.81	ハイアロ	石材同定試料採取(番号なし)、小片
164	1011-03	砥石	L-96	SH185	6.2	5.9	1.6	68.00	砂岩	
165	1011-04	砥石		SH185	5.8	4.7	2.4	81.40	砂岩	
166	1010-04	砥石	M-95	SH185	6.9	6.7	2.4	101.20	凝灰質砂岩	
167	1068-03	砥石	M-104	SK194	5.0	3.4	1.7	33.20	凝灰質砂岩	

No.	実測番号	器種	小地区	出土遺構	法量 (cm)			重量 (g)	石材	特記事項	
					長さ	幅	厚さ				
168	R285	大型石廂丁	M-106	SK200	7.0	6.8	0.8	58.30	緑泥片岩		
169	1068-04	敲石	M-105	SK201	6.8	5.2	3.7	190.08	アゾブライト		
170	1068-01	凹石	M-105	SK201	15.2	14.6	4.7	1000.00	凝灰質砂岩		
171	1068-02	石核	L-101	SK195	6.7	3.6	2.6	45.01	サヌカイト		
172	1012-03	盤状片刃石斧	M-99	SD209	2.2	1.2	0.7	4.02	ハイアロ		
173	1012-01	大型石廂丁	M-104	SK202	4.1	5.1	0.7	22.10	結晶片岩	小片	
174	1012-02	両刃石斧	M-103	SK203	6.9	3.9	3.0	74.10	ハイアロ	被熱	
175	1070-05	両刃石斧	M-99	SK211	6.0	7.6	2.5	145.66	ハイアロ	二次加工(敲打)	
176	1012-04	砥石	M-97	SK214	4.1	3.0	2.1	24.60	砂岩		
177	1012-06	打製石鏃	H96	SK219	4.2	2.0	0.4	3.90	サヌカイト	平基	
178	1012-05	打製石斧	H-96	SK219	5.0	4.3	1.0	28.30	泥岩		
179	1013-01	大型石廂丁	H-95	SD220	4.4	6.2	0.4	36.80	緑泥片岩		
180	1013-02	大型石廂丁	H-94	SK227	4.2	5.9	0.4	8.40	結晶片岩	小片	
181	1101-02	R F	H-87	SK234	2.4	5.0	0.4	5.44	サヌカイト		
182	1013-03	砥石	I-93	SK239	8.8	5.2	2.0	63.80	凝灰質砂岩	被熱、小片	
183	1069-01	砥石	I-92	SD241	6.0	3.3	2.3	48.17	砂岩	筋砥石	
184	1013-06	磨石	L-88	SD278	6.9	6.2	1.8	58.90	砂岩		
185	1013-04	打製石鏃	J-91	SK260	2.9	1.6	0.3	1.40	サヌカイト	平基	
186	1014-01	石鏃	M-93	SK297	2.6	1.5	0.6	21.90	下呂石		
187	1101-01	スクレイパー	K-90	SK270	5.5	6.6	1.0	31.26	サヌカイト	完形、1980年報告(図版46下-6)	
188	1069-02	扁平片刃石斧	K-90	SK270	3.1	4.7	1.0	11.19	ハイアロ	小片	
189	1013-05	砥石	K-88	SK273	6.4	7.1	2.3	109.10	砂岩		
190	1014-03	凹石	I-82	SD318	13.4	8.2	2.5	350.00	凝灰質砂岩	砥石としても使用	
191	1014-02	敲石	I-82	SD318	6.5	4.0	3.4	105.10	塩基性岩	磨石としても使用	
192	R358	打製石鏃		SH320	4.0	2.1	0.4	3.00	サヌカイト	凹基、完形、1980年報告(報39)	
193	1014-04	R F		SH320	3.0	4.0	1.4	22.40	サヌカイト		
194	1015-01	スクレイパー		SH320	11.3	6.6	2.1	122.10	サヌカイト		
195	R036	扁平片刃石斧		SH320	8.8	5.3	1.9	202.60	ハイアロ	完形、1980年報告(図版44下)	
196	1146-04	両刃石斧		SH320	6.9	5.3	4.2	210.00	ハイアロ	未成品(敲打)	
197	1101-03	大型石廂丁		SH320	5.4	9.6	1.0	56.37	緑泥片岩		
198	1014-05	磨石		SH320	4.2	3.8	4.5	76.00	凝灰質砂岩		
199	1014-06	砥石		SH320	11.9	5.4	4.0	218.40	砂岩		
200	1015-02	砥石		J-79	SK321	5.8	4.9	5.3	195.50	砂岩	
201	1015-03	扁平片刃石斧	K-70	SK332	2.8	2.3	0.5	4.60	ハイアロ	小片	
202	1016-01	砥石	K-77	SX333	10.7	13.3	3.0	48.50	凝灰質砂岩		
203	1015-04	粗製剥片石器	L-76	SX333	7.0	9.0	2.0	117.50	砂岩		
204	1017-02	石鏃	L-77	SX333	2.5	1.6	0.4	1.10	サヌカイト	凹基	
205	1017-03	剥片	L-77	SX333	3.0	4.6	0.6	8.40	緑泥片岩	石廂丁製作時のものか	
206	1015-05	砥石	K-77	SX333	5.9	6.1	2.3	98.50	砂岩		
207	1017-01	大型石廂丁	L-77	SX333	7.4	13.0	0.9	95.00	緑泥片岩	使用痕(刃部光沢)顕著	
208	1016-02	磨石	L-77	SX333	6.5	3.1	2.9	85.50	ホルンフェルス		
209	1028-01	砥石	K-79	SK328	12.1	10.9	2.7	328.00	凝灰質砂岩		
210	1069-03	打製石鏃	L-79	SK339	2.7	1.6	0.5	1.75	下呂石	平基	
211	1017-07	スクレイパー	L-79	SK340	3.9	4.9	0.7	14.80	サヌカイト		
212	1017-04	両刃石斧	L-77	SK344	7.8	4.0	4.8	207.50	ハイアロ	小片	
213	1037-01	砥石	M-77	SK345	15.7	11.3	3.2	525.00	凝灰質砂岩	被熱	
214	1017-05	砥石	L-81	SK350	5.1	4.5	1.3	53.20	砂岩		
215	1017-06	R F	L-80	SK351	2.7	4.6	0.9	12.00	サヌカイト		
216	1018-02	石鏃	M-82	SK356	2.7	1.5	0.4	1.20	サヌカイト	平基	
217	1018-03	砥石	M-82	SK356	6.7	6.7	3.0	132.00	砂岩		
218	1018-01	砥石	M-82	SK355	9.0	7.4	3.6	292.00	凝灰質砂岩		
219	1018-05	石鏃	M-77	SK368	2.6	1.2	0.7	2.50	下呂石		
220	R377	打製石鏃	L-75	SK372	3.4	1.9	0.2	-	サヌカイト	柳葉、完形	
221	1018-04	R F	M-74	SK377	1.8	3.4	0.3	1.60	サヌカイト		
222	1018-06	石鏃	M-12	SK381	2.1	1.9	0.4	1.50	サヌカイト	平基	
223	1069-04	打製石鏃	N-82	SK384	3.3	1.1	0.5	1.73	サヌカイト	柳葉	
224	1018-08	両刃石斧	N-82	SK384	6.6	5.5	4.6	170.70	ハイアロ	小片	
225	1018-07	砥石	N-82	SK384	5.4	3.5	1.2	18.70	泥岩		



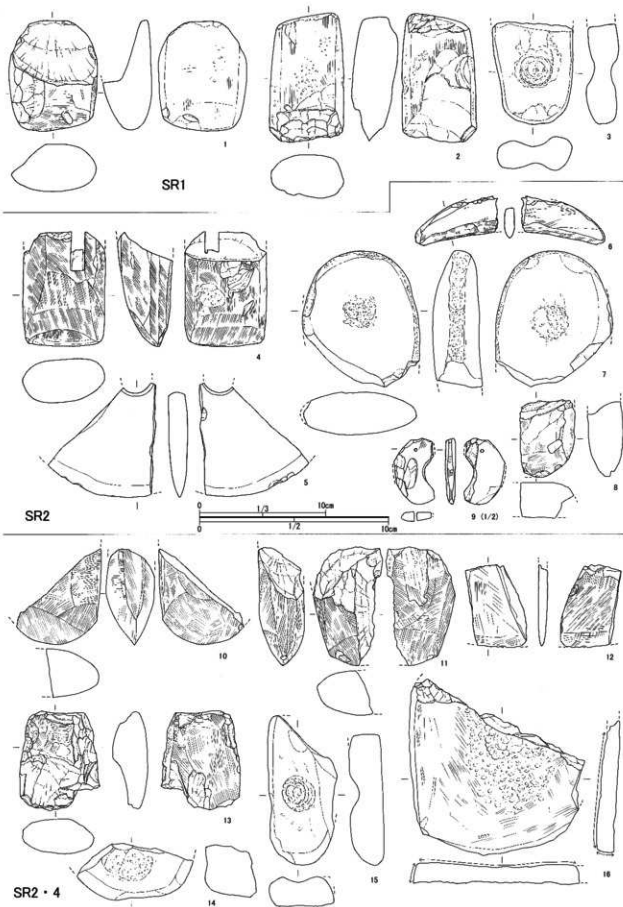
№	実測番号	器種	小地区	出土 遺構	法量 (cm)			重量 (g)	石材	特記事項
					長さ	幅	厚さ			
226	195-02	砥石	J-67	SK409	3.2	2.6	0.8	10.77	砂岩	顔料付着
227	1019-01	楔形石器	N-78	SK390	2.8	2.2	0.6	5.10	下呂石	
228	R394	打製石鏃	N-74	SK395	3.3	2.3	0.5	5.50	サヌカイト	柳葉?
229	1019-02	砥石	N-93	SK394	10.8	9.7	4.3	420.00	凝灰質砂岩	
230	6010	扁平片刃石斧	J-63	SD413	6.7	4.4	1.7	114.90	ハイアロ	完形、使用痕(光沢)顕著
231	1069-05	扁平片刃石斧	K-64	SK415	4.4	3.9	0.7	19.35	ハイアロ	
232	1069-06	砥石	L-70	SK416	6.9	7.1	4.8	270.00	砂岩	礫石としても使用
233	1070-01	両刃石斧	I-70	SK416	6.8	4.7	3.8	91.63	ハイアロ	
234	R283	石廂丁	L-67	SH419	6.6	4.3	0.6	32.80	結晶片岩	1980年報告(図版45上)
235	1070-02	砥石	M-69・70	SH417	9.3	6.9	3.4	239.94	凝灰質砂岩	
236	1019-04	砥石	L-69	SH417	9.1	4.6	1.7	86.40	凝灰質砂岩	
237	1019-03	砥石	L-69	SH417	12.1	9.3	3.7	525.00	凝灰質砂岩	
238	1070-03	両刃石斧	M-65	SK425	9.9	5.3	3.3	146.91	ハイアロ	
239	1070-04	両刃石斧	M-65	SK425	6.5	3.6	2.3	32.82	ハイアロ	小片、顔料付着?
240	1028-02	砥石	N-56	SD438	7.4	10.6	2.4	164.40	凝灰質砂岩	
241	1028-03	磨石	L-56	SD438	10.2	5.4	3.7	204.70	凝灰質砂岩	
242	1030-01	スクレイパー	N-47	SD439	3.8	7.0	2.1	39.20	サヌカイト	
243	1029-01	礫石	L-49	SD439	7.6	6.2	4.4	268.00	砂岩	
244	1029-03	磨石	O-47	SD439	8.0	5.8	4.2	228.00	花崗岩	
245	1030-02	砥石	L-49	SD439	9.6	8.4	1.5	196.70	ホルンフェルス	
246	1029-02	礫石	O-47	SD439	9.6	6.6	3.0	288.00	砂岩	磨石としても使用
247	1029-05	砥石	M-48	SD439	4.6	5.1	0.7	30.40	緑泥片岩	石廂丁片の可能性あり
248	1029-04	磨石	M-50	SD439	5.2	5.0	1.1	32.60	砂岩	
249	1032-01	砥石	M-48	SD439	9.2	6.6	2.6	167.20	凝灰質砂岩	
250	1034-03	両刃石斧	I-48	SD440	7.0	5.6	1.7	74.77	ハイアロ	小片
251	1031-04	砥石	I-49	SD440	4.3	6.4	2.6	78.95	凝灰質砂岩	
252	1073-01	両刃石斧	I-49	SD440	8.4	3.8	3.2	157.20	ハイアロ	石材同定試料採取(番号なし)、小片
253	1031-01	砥石	I-49	SD440	8.5	7.4	3.9	235.00	凝灰質砂岩	
254	1030-03	砥石	I-49	SD440	5.9	6.5	3.5	116.60	チャート	
255	1033-01	砥石	J-48	SD440	5.4	5.0	3.4	133.61	花崗岩	
256	1033-04	磨石	J-48	SD440	6.2	7.5	4.3	239.14	アブライト	
257	1033-02	砥石	J-48	SD440	7.8	5.0	2.3	178.05	片麻岩	
258	1031-03	砥石	J-48	SD440	6.2	7.7	1.7	88.30	凝灰質砂岩	
259	1034-01	閉石	I-51	SD440	8.4	7.4	2.8	158.86	凝灰質砂岩	
260	1032-03	砥石	I-51	SD440	12.2	7.7	2.5	270.00	凝灰質砂岩	
261	1034-02	砥石	J-50	SD440	6.5	5.9	3.2	181.02	凝灰質砂岩	
262	1034-04	磨石	J-48	SD440	4.9	5.3	3.2	100.94	砂岩	
263	1030-06	砥石	I-51	SD440	7.1	4.6	1.9	68.90	アブライト	
264	1031-02	砥石	I-49	SD440	5.8	11.8	1.5	100.64	凝灰質砂岩	
265	1033-03	砥石	J-48	SD440	6.4	5.2	3.5	139.38	凝灰質砂岩	
266	1030-05	砥石	I-49	SD440	8.0	9.2	2.8	242.00	凝灰質砂岩	
267	1033-05	礫石	J-48	SD440	7.5	4.1	3.3	124.02	砂岩	
268	1032-04	礫石	J-48	SD440	6.5	6.2	5.5	330.00	チャート	
269	1030-04	磨石	J-48	SD440	6.7	3.6	2.8	74.10	砂岩	被熱
270	1035-05	大型石廂丁	M-53	SD442	6.8	11.8	1.2	124.70	結晶片岩	敲打穿孔
271	1036-02	柱状片刃石斧	L-53	SD442	4.5	3.6	2.7	63.13	ハイアロ	未成品(敲打)
272	1035-04	剥片	SD442	5.2	9.2	0.6	27.70	サヌカイト		
273	1035-03	剥片	M-53	SD442	5.4	6.5	0.8	31.08	サヌカイト	
274	1035-02	石廂丁	J-54	SD442	7.3	5.1	0.9	42.92	ホルンフェルス	未成品(剥離)
275	1034-06	剥片	M-46	SD441	6.2	2.8	0.8	13.09	サヌカイト	
276	1035-01	両刃石斧	K-46	SD441	8.6	5.5	4.5	243.23	ハイアロ	
277	1034-05	砥石	M-46	SD441	4.5	5.0	2.0	48.82	凝灰質砂岩	
278	1036-01	柱状片刃石斧	O-56	SD443	8.0	5.4	3.7	153.35	凝灰岩	挟りあり
279	1037-02	扁平片刃石斧	O-55	SK448	2.9	1.6	1.2	9.73	泥岩	小片
280	1037-03	砥石	N-48	SK449	14.3	12.6	2.0	500.00	凝灰質砂岩	
281	1038-03	両刃石斧	M-43	SD451	5.6	3.9	1.1	22.15	ハイアロ	小片
282	1073-02	両刃石斧	L-42・43	SD451	8.9	8.6	4.0	430.00	砂岩	二次加工(敲打)
283	1038-02	砥石	K-42・43	SD451	5.5	6.8	2.7	74.16	凝灰岩	
284	1073-04	閉石	L-42・43	SD451	9.7	6.6	5.0	408.00	凝灰質砂岩	
285	1038-04	砥石	M-43	SD451	4.4	3.7	3.0	39.18	凝灰質砂岩	

No	実測番号	器種	小地区	出土遺構	法量 (cm)			重量 (g)	石材	特記事項
					長さ	幅	厚さ			
286	1038-01	石廬丁	M-43	SD451	3.9	5.4	0.7	21.43	緑泥片岩	小片、擦切状の研磨
287	1073-03	凹石	M-43	SD451	9.5	7.1	3.6	390.00	花崗岩	
288	1090-01	勾玉	L-43	SD451	3.4	2.1	0.9	8.12	緑色凝灰岩	1980年報告(図版49-2)
289	1090-02	勾玉	N-43	SD451	3.0	1.9	1.0	6.47	蛇紋岩	1980年報告(図版49-1)
290	1090-015	ガラス小玉	L-42	SD451	0.3	0.4	0.2	0.04	ガラス	水色、1980年報告(図版49-17)
291	1090-017	白玉	D-63	SK457	0.5	0.8	0.3	0.23	緑色凝灰岩	1980年報告(図版49-7)
292	R911	紡錘車	Y-63	SK495	4.2	3.9	0.4	15.00	緑泥片岩	完形、1980年報告(図版47下)
293	1019-05	玉鉏	T-62	SK486	7.5	3.1	0.6	19.90	紅麻片岩	使用痕なし
294	1074-01	敲石	O-63・64	SD456	9.4	7.4	3.3	347.00	砂岩	
295	1074-02	砥石	R-63	SK466	5.7	5.2	3.3	124.02	凝灰質砂岩	
296	1074-03	扁平片刃石斧	S-63	SK476	6.9	4.7	0.8	44.38	ホルンフェルス	
297	1038-07	砥石	A-63	SK525	12.3	3.9	2.0	114.80	凝灰質砂岩	
298	1019-06	両刃石斧	U-63	SK487	4.9	5.4	3.6	141.55	ハイアロ	
299	1038-05	砥石	W-62	SK502	7.9	4.5	2.3	81.90	凝灰質砂岩	
300	1074-04	砥石	B-63	SD528	8.3	8.2	3.0	214.84	凝灰質砂岩	
301	1038-06	石廬丁	Y-63	SK516	2.7	4.0	1.0	8.46	緑泥片岩	小片
302	1072-01	砥石	C-63	SK532	17.1	18.7	5.0	2140.00	凝灰質砂岩	
303	1039-02	両刃石斧	Q-63	SK561	11.3	5.1	2.5	204.13	ハイアロ	二次加工(敲打)
304	1101-04	扁平片刃石斧	G-62	SK550	3.7	3.0	0.7	14.73	ハイアロ	石材同定(3FN0014)
305	1039-01	石錘	H-63	SH553	3.0	1.8	0.5	2.75	サスカイト	
306	1101-05	R F	R-63	SK572	1.7	3.1	0.3	2.30	サスカイト	
307	1075-02	砥石	Q-62	SK565	11.6	6.3	2.0	139.93	凝灰質砂岩	
308	1039-03	石廬丁	Q-62	SK568	4.2	6.6	0.9	35.83	ホルンフェルス	未成品(剥離)
309	1039-04	砥石	S-61	SK585	5.2	6.0	2.1	78.15	凝灰質砂岩	
310	1102-01	スクレイパー	R-62	SK575	3.4	8.3	0.7	18.42	泥岩	
311	1102-02	スクレイパー	U-62	SH586	3.9	7.0	1.2	30.83	サスカイト	1980年報告(図版46下-7)
312	1039-05	砥石	SH586	7.2	1.7	3.3	44.21	凝灰質砂岩		
313	1075-01	磨石	U-62	SH586	6.0	5.7	3.9	204.36	砂岩	
314	1102-03	R F	U-62	SH586	3.9	2.3	0.6	5.62	サスカイト	
315	R359	打製石鏃	M-65	SH586	3.3	1.0	0.3	1.30	サスカイト	標葉、完形
316	1101-06	打製石槍	U-62	SH586	4.3	2.1	1.3	12.03	サスカイト	
317	1090-07	管玉	U-62	SH586	0.9	0.3	0.2	0.11	緑色凝灰岩	1980年報告(図版49-10)
318	1040-01	砥石	T-62	SK589	6.4	5.9	2.1	84.68	凝灰質砂岩	
319	1102-04	スクレイパー	V-61	SK609	3.5	7.6	1.3	19.82	サスカイト	
320	R364	打製石鏃	V-61	SK609	2.8	2.2	0.3	1.70	サスカイト	有茎、完形、1980年報告(図版45下)
321	1102-05	石廬丁	Y-60	SK614	3.6	5.3	0.6	17.59	緑泥片岩	
322	1040-02	両刃石斧	Y-60	SK613	3.3	3.3	0.6	7.49	ハイアロ	小片
323	1040-03	砥石	X-60	SK633	6.4	6.4	1.4	88.12	凝灰質砂岩	
324	R354	打製石鏃	W-61	SD616	3.9	1.4	0.3	2.20	サスカイト	標葉、完形
325	R360	打製石鏃	SH637	3.8	1.8	0.8	4.60	サスカイト	有茎、1980年報告(報23)	
326	1097-02	石錘	C-58	SZ645	5.4	2.2	1.2	10.90	サスカイト	1980年報告(図版47上-3)
327	1071-01	台石	C-58	SZ645	21.2	16.1	6.9	2460.00	砂岩	
328	R290	大型石廬丁	D-58	SK651	7.0	4.4	0.9	41.00	緑泥片岩	1980年報告(図版45上)
329	R289	大型石廬丁	D-58	SK651	5.3	12.7	1.0	84.80	緑泥片岩	
330	1090-03	管玉	D-58	SK651	2.7	1.3	0.3	8.50	緑色凝灰岩	1980年報告(図版49-3)
331	1102-06	スクレイパー	C-58	SK648	5.4	5.3	1.5	40.02	サスカイト	
332	1040-04	スクレイパー	L-102	SK656	5.5	3.7	1.3	22.89	サスカイト	
333	1075-03	両刃石斧	L-102	SK656	11.4	6.4	5.5	590.00	ハイアロ	使用痕(光沢)顕著、被熱
334	1041-02	両刃石斧	K-73	SZ658	8.3	4.2	2.8	165.90	ホルンフェルス	
335	1040-05	砥石	K-73	SZ658	15.3	14.9	1.3	425.00	砂岩	
336	1041-01	砥石	K-73	SZ658	18.1	11.0	3.8	1000.00	砂岩	台石としても利用
337	1042-01	大型石廬丁	J-76	SK661	6.1	6.4	1.0	48.95	結晶片岩	被熱、敲打穿孔
338	1042-03	R F	J-77	SD668	2.7	3.6	0.9	9.60	サスカイト	一部に研磨痕、石剣を転用か?
339	1042-02	R F	J-77	SD668	2.3	4.7	0.5	5.66	サスカイト	
340	1042-04	両刃石斧	J-77	SD668	5.9	6.5	2.8	143.07	ハイアロ	二次加工(敲打)

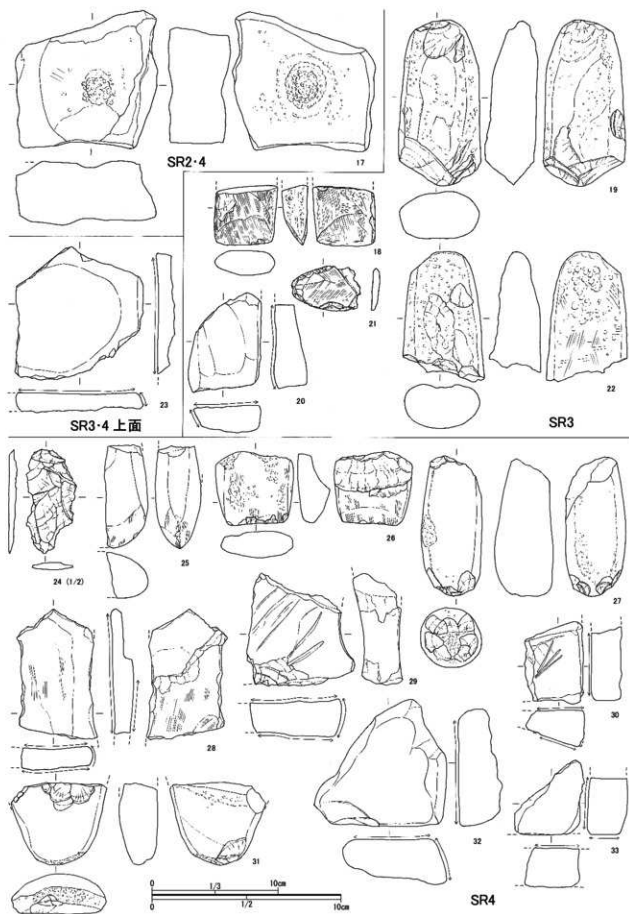
№	実測番号	器種	小地区	出土 遺構	法量 (cm)			重量 (g)	石材	特記事項
					長さ	幅	厚さ			
341	R352	打製石礫	K-82	SK669	2.8	1.5	0.4	-	サスカイト	凹基、完形、1980年報告(報41)
342	1054-02	扁平片刃石斧	H-97	Pit3	6.5	3.1	0.9	31.40	ハイアロ	
343	1050-01	砥石	H-119	Pit1	4.4	3.8	2.9	44.04	凝灰質砂岩	被熱
344	1051-08	大型石廂丁	I-95	Pit1	2.3	7.4	0.9	18.60	結晶片岩	小片、被熱
345	1050-02	打製石礫	I-109	Pit4	2.7	1.2	0.2	1.14	サスカイト	
346	1050-05	R F	I-102	Pit1	3.5	8.7	1.5	42.15	サスカイト	
347	1051-01	砥石	I-102	Pit1	5.3	5.9	1.4	57.16	凝灰質砂岩	
348	1050-04	スクレイパー	I-102	Pit1	3.8	6.7	1.2	24.76	サスカイト	
349	1050-06	R F	I-102	Pit1	1.6	3.2	0.3	2.56	サスカイト	
350	1143-01	柱状片刃石斧	I-106	Pit1	8.2	5.0	2.9	197.00	ハイアロ	二次加工(敲打)
351	1053-04	砥石	J-78	Pit2	6.3	5.1	2.1	56.20	凝灰質砂岩	石錐の可能性
352	1093-03	石廂丁	J-90	Pit2	5.0	5.9	0.6	21.68	緑泥片岩	破片を再加工か
353	1051-04	R F	J-103	Pit4	2.1	3.4	0.3	3.25	サスカイト	
354	1052-04	砥石	J-80	Pit3	9.2	13.5	6.6	8.20	凝灰質砂岩	
355	1053-05	両刃石斧	J-80	Pit1	7.2	7.6	4.8	331.00	ハイアロ	二次加工(敲打)
356	1053-01	砥石	J-80	Pit1	6.0	5.2	3.1	131.16	凝灰質砂岩	
357	1053-02	扁平片刃石斧	K-78	Pit4	5.6	3.8	1.2	37.81	ハイアロ	
358	1053-03	砥石	K-79	Pit1	6.7	5.1	1.5	53.43	凝灰質砂岩	
359	1054-01	砥石	K-79	Pit1	8.8	5.3	2.3	82.40	凝灰質砂岩	
360	1052-02	打製石礫	J-80	Pit2	3.0	1.2	0.4	1.55	サスカイト	平基
361	1051-03	砥石	J-96	Pit4	7.1	4.7	1.2	42.88	砂岩	
362	1051-02	扁平片刃石斧	J-96	Pit6	5.6	2.8	1.3	22.77	ハイアロ	小片
363	1051-06	磨石	K-102	Pit4	4.5	7.0	2.7	65.83	砂岩	
364	1051-07	砥石	L-102	Pit3	6.2	6.5	4.1	163.40	凝灰質砂岩	
365	1051-05	R F	K-103	Pit1	2.7	3.5	0.5	2.43	サスカイト	
366	1052-01	柱状片刃石斧	K-79	Pit6	6.4	2.1	1.3	12.40	ハイアロ	小片
367	1052-03	大型石廂丁	L-78	Pit2	8.2	11.6	0.8	117.25	緑泥片岩	
368	1054-03	紡錘車	M-83	Pit4	5.3	4.9	1.3	44.00	結晶片岩	大型石廂丁を転用?
369	1052-05	砥石	M-85	Pit10	8.4	9.7	2.8	200.00	凝灰質砂岩	
370	1050-03	扁平片刃石斧	M-110	Pit2	10.6	7.6	2.2	320.00	ハイアロ	
371	1054-06	スクレイパー	N-54	Pit1	7.8	3.9	1.1	33.90	サスカイト	
372	1055-01	柱状片刃石斧	N-54	Pit1	5.6	2.7	3.1	57.44	ハイアロ	
373	1054-07	管玉	N-54	Pit1	2.4	0.4	-	0.83	緑色凝灰岩	未成品(研磨)
374	1054-04	両刃石斧	N-68	Pit1	5.0	2.7	0.9	16.10	ハイアロ	小片、二次加工(研磨)
375	1054-05	剥片	N-71	Pit4	2.5	2.9	0.5	4.70	下呂石	
376	1055-03	剥片	O-57	Pit1	2.1	2.4	0.2	1.63	サスカイト	
377	1055-04	磨製石剣	O-57	Pit1	4.0	1.5	0.8	4.29	泥岩	小片
378	1055-02	石核	O-55	Pit1	2.8	2.9	2.8	30.79	サスカイト	
379	1145-01	両刃石斧	R-62	Pit5	12.5	5.8	4.2	402.00	ハイアロ	二次加工(敲打)
380	R353	打製石礫	U・V-61	Pit12	2.3	1.4	0.5	1.60	サスカイト	凹基、完形、1980年報告(報43)
381	1143-03	両刃石斧	V-60	Pit1	13.4	5.8	2.5	202.00	ハイアロ	
382	1076-02	凹石	I-113	SZ1003	13.2	10.5	6.5	740.00	砂岩	
383	R948	石小刀	M-107	SR1004	12.3	1.9	1.0	27.70	サスカイト	ほぼ完形、1980年報告(報47)
384	1098-04	スクレイパー		SR1004	5.1	6.7	1.1	27.01	サスカイト	完形、1980年報告(図版46下-13)
385	1043-02	スクレイパー		SR1004	4.7	5.2	0.5	20.15	サスカイト	
386	R369	打製石礫	K-89	SR1004	2.5	1.6	0.5	1.20	サスカイト	凹基
387	R366	打製石礫	M-95	SR1004	2.8	1.4	0.3	-	サスカイト	柳葉
388	1043-01	石核		SR1004	7.8	4.8	2.5	79.99	サスカイト	原料の法量が判明する資料
389	1084-01	打製石剣	K-107	SR1004	7.7	5.2	3.3	120.28	サスカイト	
390	R001	打製石斧		SR1004	19.0	8.2	1.9	520.00	緑泥片岩	完形、1980年報告(報16)
391	1092-01	両刃石斧	L-113	SR1004	18.1	6.7	4.3	910.00	ハイアロ	完形
392	1080-01	両刃石斧	M-108	SR1004	8.0	4.3	2.9	138.33	ハイアロ	未成品(敲打)
393	1079-03	両刃石斧	M-105	SR1004	6.6	3.4	4.3	123.68	ハイアロ	
394	1045-02	両刃石斧		SR1004	6.0	6.5	2.3	134.36	ハイアロ	
395	1083-01	柱状片刃石斧		SR1004	8.3	5.3	2.5	181.01	結晶片岩	二次加工(敲打)
396	1080-02	両刃石斧	M-106	SR1004	4.0	5.1	1.0	24.88	ハイアロ	小片
397	1043-04	柱状片刃石斧		SR1004	5.5	3.6	1.2	25.60	ハイアロ	小片
398	1043-03	両刃石斧	M-121	SR1004	3.8	2.6	3.0	19.25	ハイアロ	小片

No.	実測番号	器種	小地区	出土遺構	法量 (cm)			重量 (g)	石材	特記事項
					長さ	幅	厚さ			
399	1076-01	両刃石斧	M-102~106	SR1004	13.0	6.3	4.4	640.00	塩基性岩	二次加工 (敲打)
400	1045-03	両刃石斧		SR1004	6.3	6.4	4.4	290.00	ハイアロ	使用痕 (万部光沢) 顕著
401	1079-02	両刃石斧	M-105	SR1004	8.2	4.8	2.2	112.58	ハイアロ	二次加工 (敲打)
402	1085-01	両刃石斧	M-121	SR1004	5.1	6.7	2.5	95.94	ハイアロ	小片
403	1080-03	両刃石斧	M-106	SR1004	8.1	5.4	3.3	140.02	ハイアロ	二次加工 (剥離)
404	1084-03	両刃石斧	N-120	SR1004	5.5	5.2	5.1	172.22	ハイアロ	小片
405	1084-02	扁平片刃石斧		SR1004	8.7	4.0	1.3	85.48	ホルンフェルス	
406	1044-03	砥石		SR1004	5.6	7.1	1.5	84.29	砂岩	
407	R002	扁平片刃石斧		SR1004	10.3	7.4	1.4	238.70	ハイアロ	ほぼ完形、1980年報告 (図版44下)
408	1080-04	凹石	M-106	SR1004	5.5	6.5	2.3	131.11	塩基性岩	
409	1077-01	砥石	M-120	SR1004	10.5	11.2	5.0	1050.00	砂岩	
410	1081-02	砥石	M	SR1004	4.4	11.7	4.4	250.00	凝灰質砂岩	
411	1045-01	砥石		SR1004	6.4	6.5	2.7	110.25	凝灰質砂岩	
412	1043-06	玉磨	L-100	SR1004	6.9	3.1	0.5	16.20	紅廉片岩	使用痕なし
413	1043-05	砥石	L-100	SR1004	8.5	6.0	1.5	122.20	砂岩	
414	1082-02	砥石	M-106	SR1004	13.0	8.8	3.4	440.00	凝灰質砂岩	
415	1083-02	扁平片刃石斧	K-107	SR1004	5.1	4.1	1.0	39.39	ハイアロ	
416	1044-01	砥石		SR1004	11.0	9.6	5.3	800.00	凝灰質砂岩	
417	1044-02	砥石		SR1004	7.2	7.0	5.3	300.00	凝灰質砂岩	舊砥石
418	1078-01	凹石	L-107	SR1004	15.5	9.6	4.6	975.00	凝灰質砂岩	砥石としても使用
419	1083-03	敲石	M-102~106	SR1004	10.7	5.2	3.3	275.00	砂岩	
420	1077-02	敲石	M-121	SR1004	15.5	10.5	3.1	660.00	凝灰質砂岩	
421	1079-04	敲石	K-106	SR1004	8.8	7.6	3.0	340.00	花崗岩	
422	1081-01	敲石	M-108	SR1004	7.7	7.0	2.8	198.88	砂岩	
423	1082-01	敲石	M-113	SR1004	11.3	6.5	4.6	550.00	砂岩	
424	1081-03	敲石	M-118	SR1004	8.9	7.6	2.6	295.00	アブライト	
425	1079-01	凹石	M-102~106	SR1004	9.6	9.3	4.1	390.00	凝灰質砂岩	
426	1048-01	敲石		SR1004	13.1	9.3	4.1	650.00	砂岩	
427	1098-06	スクレイパー	H-91	SR1005	5.7	7.7	1.6	68.17	サスカイト	完形、1980年報告 (図版46下-2)
428	1098-05	磨製石剣	L-95	SR1005	6.9	1.5	0.3	3.90	泥岩	小片
429	1099-01	扁平片刃石斧	K-92	SR1005	5.5	3.5	0.8	33.77	ハイアロ	ほぼ完形、1980年報告 (図版46下)
430	1099-02	大型石廂丁		SR1005	7.3	6.0	1.1	52.74	緑泥片岩	
431	1097-01	両刃石斧	M-92	SR1005	9.4	6.1	3.3	340.00	ハイアロ	二次加工 (敲打)、石材同定 (3FN0053)
432	1085-03	大型石廂丁	M-92	SR1005	8.4	5.9	1.0	50.91	緑泥片岩	
433	1099-03	大型石廂丁		SR1005	5.1	6.0	0.6	27.70	緑泥片岩	
434	1085-02	両刃石斧		SR1005	7.8	4.4	2.5	93.37	ハイアロ	二次加工 (研磨)
435	1085-04	両刃石斧	J-91	SR1005	6.6	6.6	2.5	147.81	ハイアロ	二次加工 (剥離)、小片
436	1086-02	両刃石斧	J-93	SR1005	7.7	6.2	4.3	290.00	ハイアロ	使用痕 (光沢) 顕著
437	1045-06	砥石		SR1005	10.2	3.1	1.3	61.85	砂岩	敲石としても利用
438	561-04	砥石		SR1005	6.0	5.2	1.0	51.90	砂岩	
439	1086-01	両刃石斧		SR1005	6.6	4.2	3.0	93.66	ハイアロ	
440	1045-05	砥石	I-93	SR1005	6.2	5.8	2.9	154.82	凝灰質砂岩	披熟
441	1045-04	砥石	I-93	SR1005	7.9	6.1	2.9	126.05	凝灰質砂岩	
442	1090-06	管玉	M-95	SR1005	0.9	0.4	0.2	0.30	緑色凝灰岩	1980年報告 (図版49-6)
443	1087-01	その他	J-87	SR1006	17.4	3.9	1.5	127.04	ホルンフェルス	側縁に線状敲打痕、土層具?
444	1096-01	扁平片刃石斧	K-88	SR1006	4.2	2.5	0.8	17.71	泥岩	完形
445	1094-01	礫状石斧	K-89	SR1006	9.0	11.6	1.8	237.29	凝灰岩	1980年報告 (図版44下-18)
446	1096-02	磨製石槍	K-88	SR1006	5.0	2.2	0.5	7.00	泥岩	基部小片、1980年報告 (図版47下)
447	1086-03	両刃石斧		SR1006	7.4	6.5	4.1	300.00	塩基性岩	二次加工 (敲打)
448	1086-04	両刃石斧	K-88	SR1006	9.4	7.1	3.3	390.00	ハイアロ	二次加工 (敲打)
449	1046-01	剥片	K-86	SR1006	3.6	4.5	0.6	9.02	サスカイト	
450	1088-01	両刃石斧	K-86	SR1006	6.7	4.5	3.8	173.95	塩基性岩	

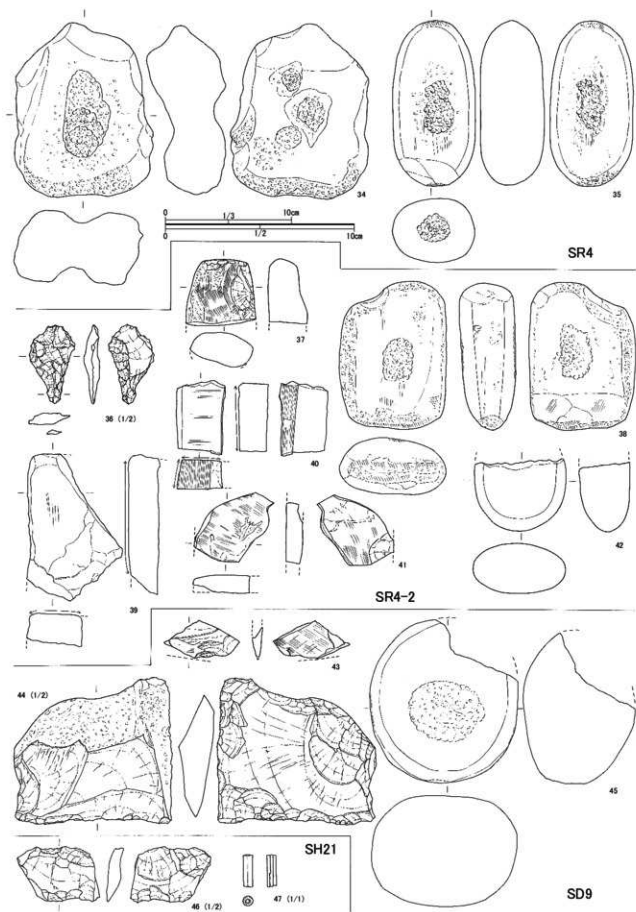
№	実測番号	器種	小地区	出土 遺構	法量 (cm)			重量 (g)	石材	特記事項
					長さ	幅	厚さ			
451	1087-02	蔽石	K-88	SR1006	10.1	5.8	5.0	440.00	砂岩	
452	1046-02	磨石		SR1006・SZ1007	6.1	5.9	1.9	89.97	閃緑岩	蔽石としても利用
453	1096-07	石錐	M-83	SZ1007	4.5	2.2	0.9	9.10	サヌカイト	1980年報告(図版47上-2)
454	1096-06	スクレイパー	M-85	SZ1007	4.7	6.9	1.3	36.43	サヌカイト	1980年報告(図版46下-3)
455	1095-01	岩偶		SZ1007	7.3	5.1	1.9	87.34	凝灰岩	凝灰岩は白色、搬入品か?、1980年報告(図版47下)
456	1088-02	両月石斧		SZ1007	8.2	7.2	5.2	450.00	ハイクロ	二次加工(蔽打)
457	1088-04	両月石斧	L-81・82	SZ1007	3.8	6.6	3.8	143.81	ハイクロ	
458	1088-03	両月石斧	K-84	SZ1007	7.9	3.9	1.8	59.49	ハイクロ	
459	1088-05	砥石	M-82	SZ1007	6.9	4.2	3.5	126.18	砂岩	
460	1046-04	蔽石	L-82	SZ1007	8.3	5.3	2.7	177.99	ホルンフェルス	
461	1095-03	扁平片月石斧		SR1008	7.3	4.8	1.5	78.69	泥岩	石材同定(3FN0004)
462	1094-03	両月石斧		SR1008	9.3	7.1	4.1	275.00	泥岩	石材同定試料採取(3FN0007)
463	1046-05	砥石	N-69	SR1008	6.6	3.4	2.1	52.08	アブライト	
464	1094-02	両月石斧		SR1008	6.3	6.1	3.8	166.34	ハイクロ	
465	1089-04	砥石	N-69	SR1008	8.8	8.9	2.4	145.90	凝灰質砂岩	
466	1089-01	両月石斧	N-69	SR1008	9.4	6.1	2.8	260.00	砂岩	磨石としても使用
467	1046-06	剥片	I-54	SZ1010	7.3	6.2	2.1	94.70	サヌカイト	
468	1047-03	粗製剥片石器	I-55	SZ1010	5.4	9.5	1.4	74.73	砂岩	
469	1046-07	R P	H-54	SZ1010	3.3	4.2	0.6	8.66	サヌカイト	
470	1047-04	石錐	I-54・55	SZ1010	3.2	1.7	0.6	2.75	下呂石	
471	1047-05	蔽石	J-51	SD1011	8.2	5.5	4.9	280.00	塩基性岩	
472	1093-01	両月石斧	O-42	SR1012	10.3	6.4	4.5	420.00	ハイクロ	石材同定試料採取(3FN0078)
473	1093-04	打製石斧	O-45	SR1012	7.1	5.2	3.0	160.65	泥岩	使用痕(光沢)顕著
474	1096-03	石廬丁	L-42	SR1012	3.7	4.1	0.5	9.55	結晶片岩	
475	1093-02	両月石斧	O-42	SR1012	5.2	6.0	2.8	193.77	ハイクロ	
476	1095-02	両月石斧		SR1012	7.1	6.8	3.9	196.10	ハイクロ	
477	1049-04	大型石廬丁	O-45	SR1012	5.5	5.0	0.8	28.03	結晶片岩	小片
478	1089-03	扁平片月石斧	O・N-42	SR1012	5.3	4.2	0.9	34.23	ハイクロ	
479	1096-05	石廬丁	O-42	SR1012	1.8	4.7	0.4	2.43	緑泥片岩	小片
480	R947	磨製石槍	J-42	SR1012	7.1	2.7	0.6	15.10	泥岩	1980年報告(報52)
481	R291	石廬丁	L-42	SR1012	8.2	4.4	0.6	38.90	緑泥片岩	再穿孔、1980年報告(報3)
482	R293	石廬丁	P-44	SR1012	9.6	5.2	0.8	54.80	緑泥片岩	背潰れ痕顕著、1980年報告(報1)
483	R294	石廬丁	L-42	SR1012	10.2	4.3	0.8	59.70	緑泥片岩	蔽打穿孔、背潰れ痕顕著、1980年報告(報4)
484	1049-03	扁平片月石斧	O-47	SR1012	3.0	3.0	0.6	12.67	ハイクロ	完形
485	1049-02	原石	O-47	SR1012	4.0	6.5	1.4	44.25	珪質岩	ベンガラ原料か?
486	1096-04	その他	N-42	SR1012	1.5	0.8	0.4	0.42	その他	骨の可能性あり
487	1090-010	管玉	L-43	SR1012	0.8	0.2	0.1	0.06	緑色凝灰岩	1980年報告(図版49-13)
488	R373	石錐	P-44	SR1012	3.6	1.4	0.7	2.80	サヌカイト	
489	R374	打製石錐	N-42	SR1012	3.4	1.4	0.8	-	サヌカイト	柳葉?、完形
490	R298	紡錘車	N-42	SR1012	6.8	4.5	0.8	40.40	緑泥片岩	未完成品(穿孔)
491	1049-05	砥石	K-44	SD1014	7.5	5.1	1.3	57.06	凝灰質砂岩	



第2図 石器・石製品実測図(1)

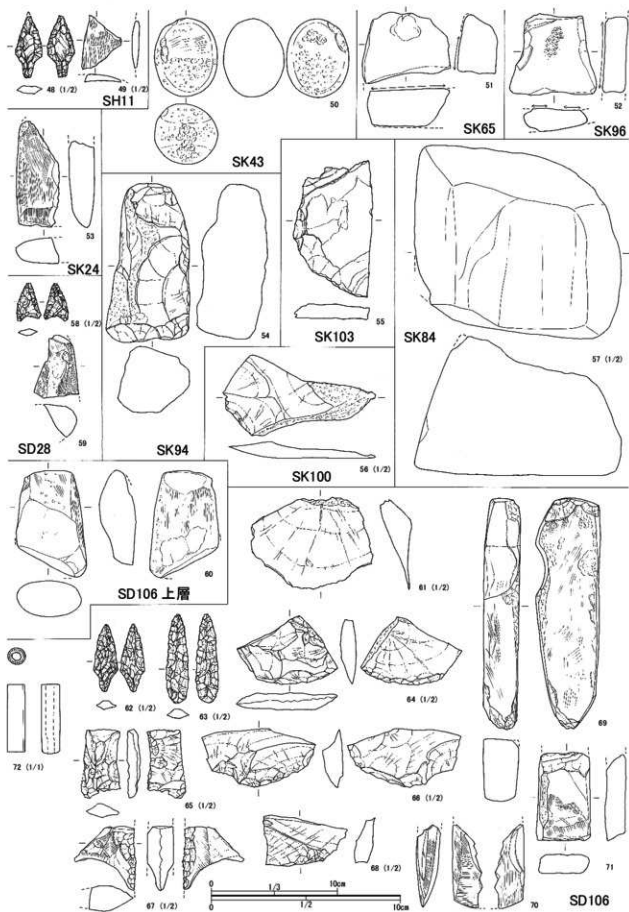


第3图 石器·石製品実測図(2)

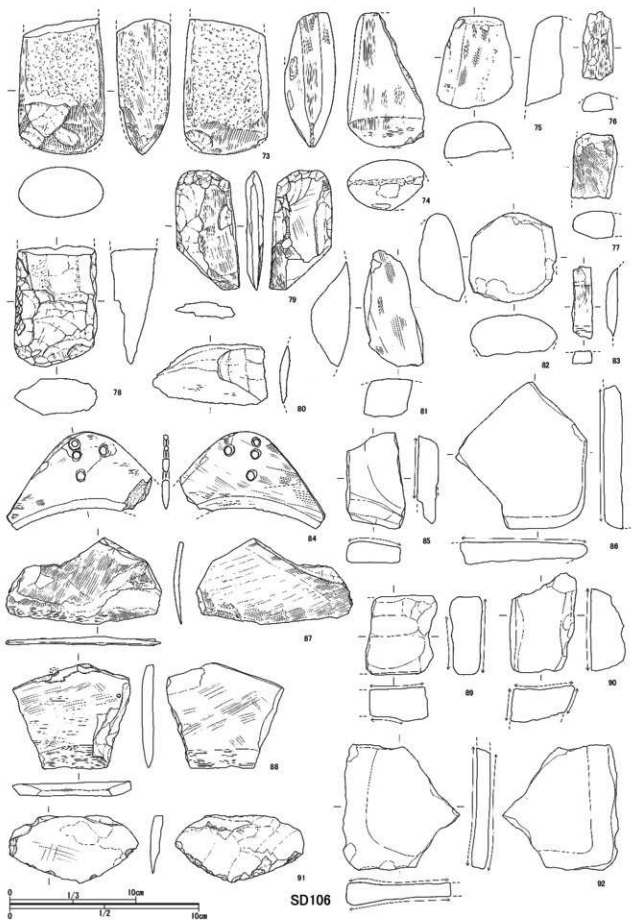


第4図 石器・石製品実測図(3)





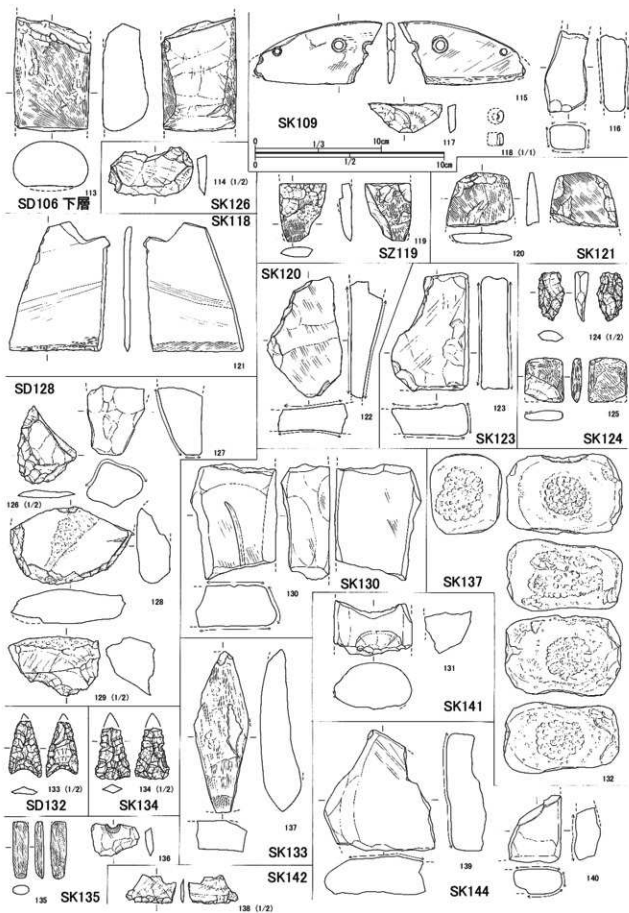
第5図 石器・石製品実測図(4)



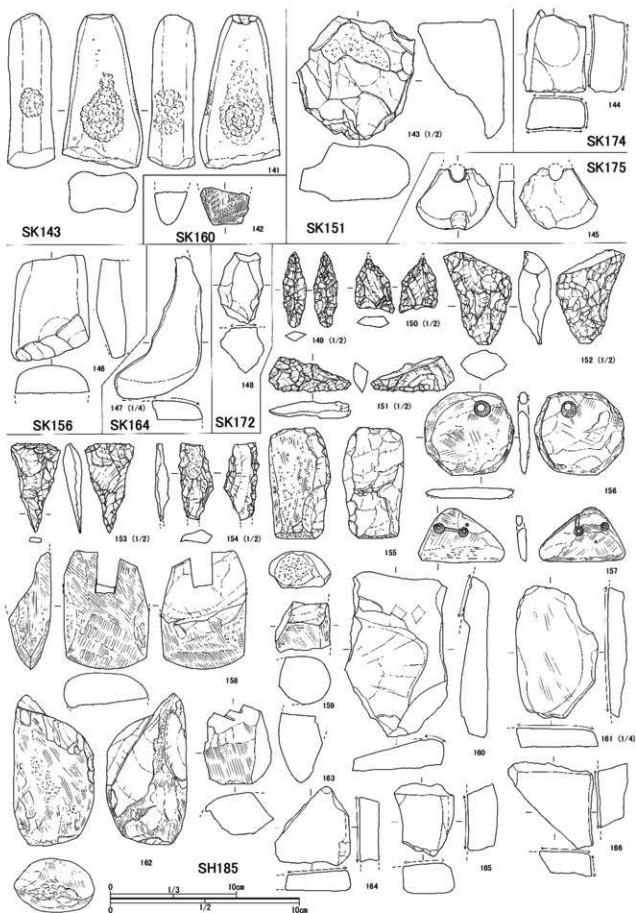
第6图 石器·石製品実測図(5)



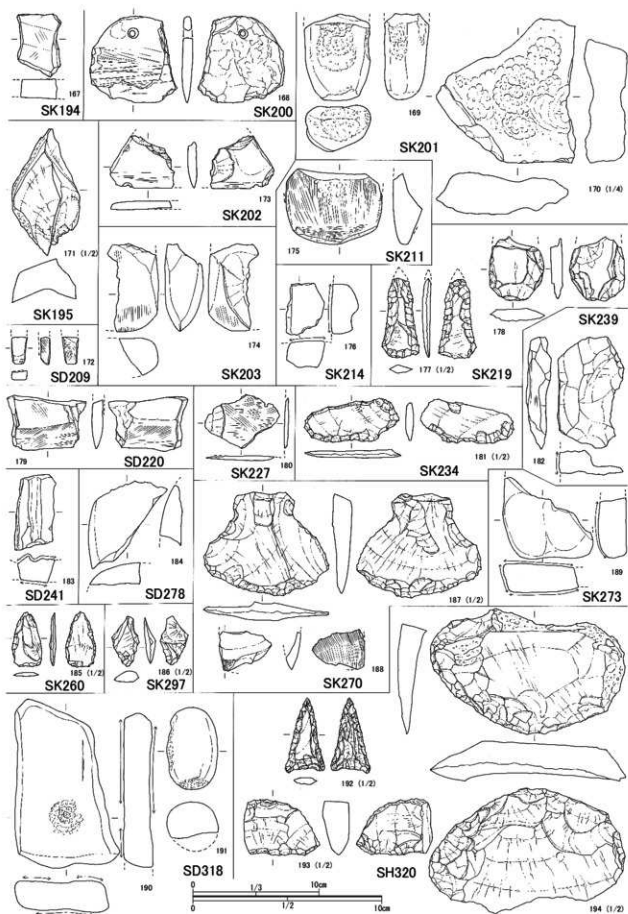
第7图 石器·石製品実測図(6)



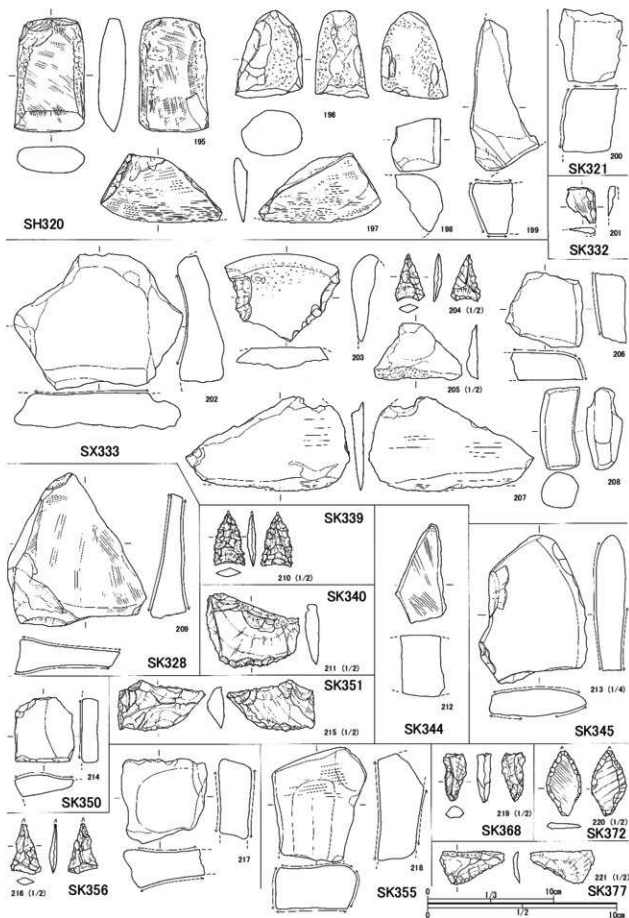
第8図 石器・石製品実測図(7)



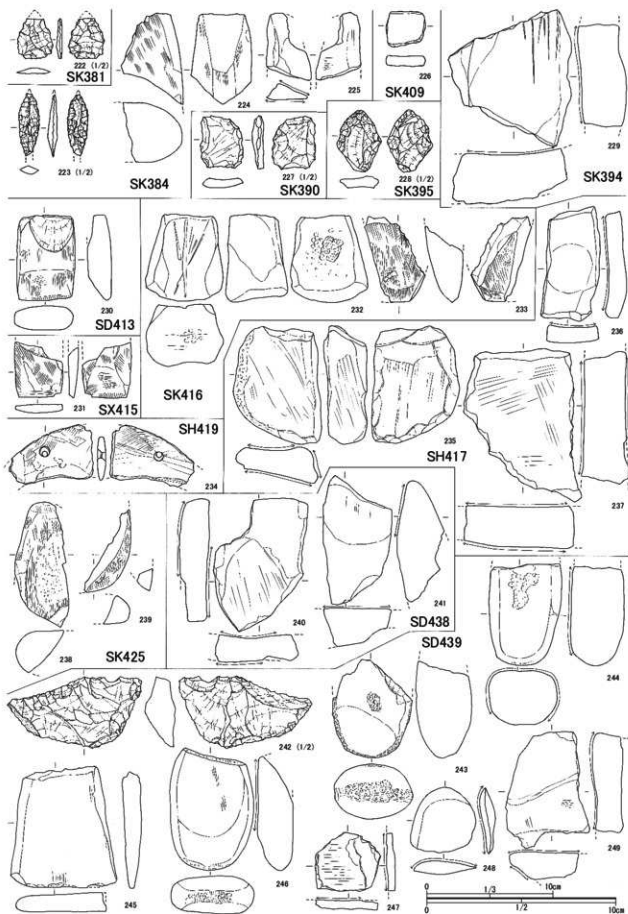
第9图 石器·石製品実測図(8)



第10圖 石器・石製品実測図(9)



第11圖 石器・石製品実測圖(10)

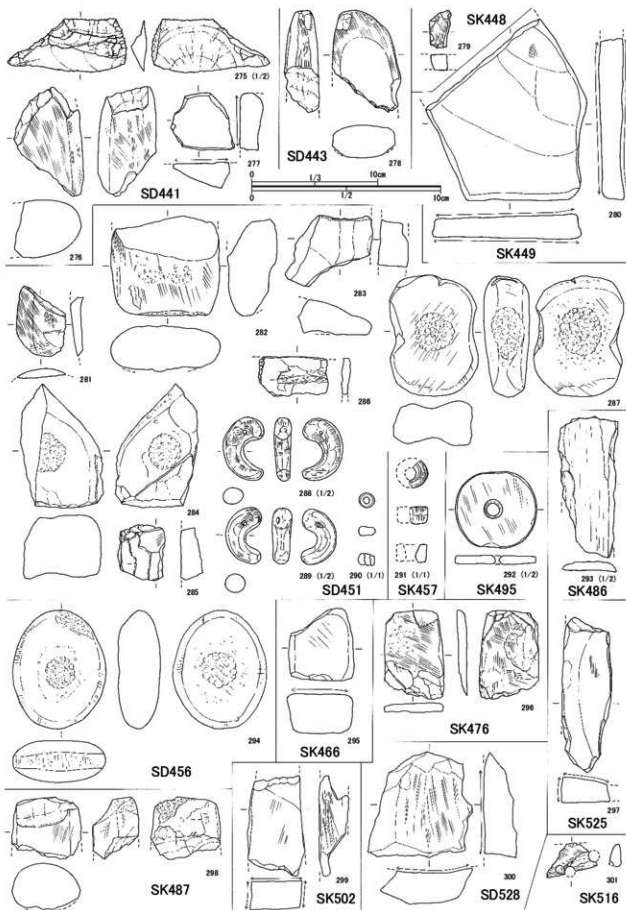


第12図 石器・石製品実測図(11)

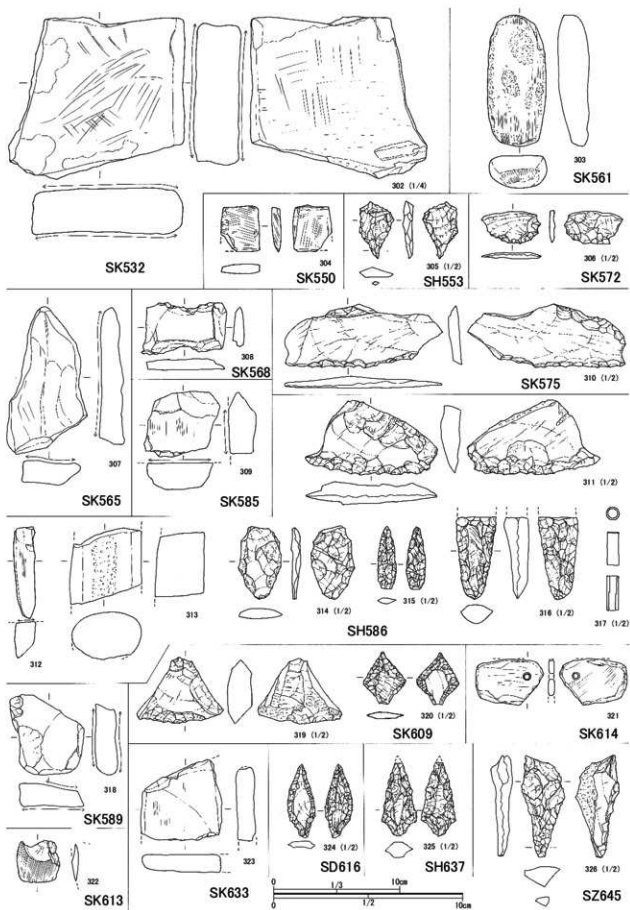




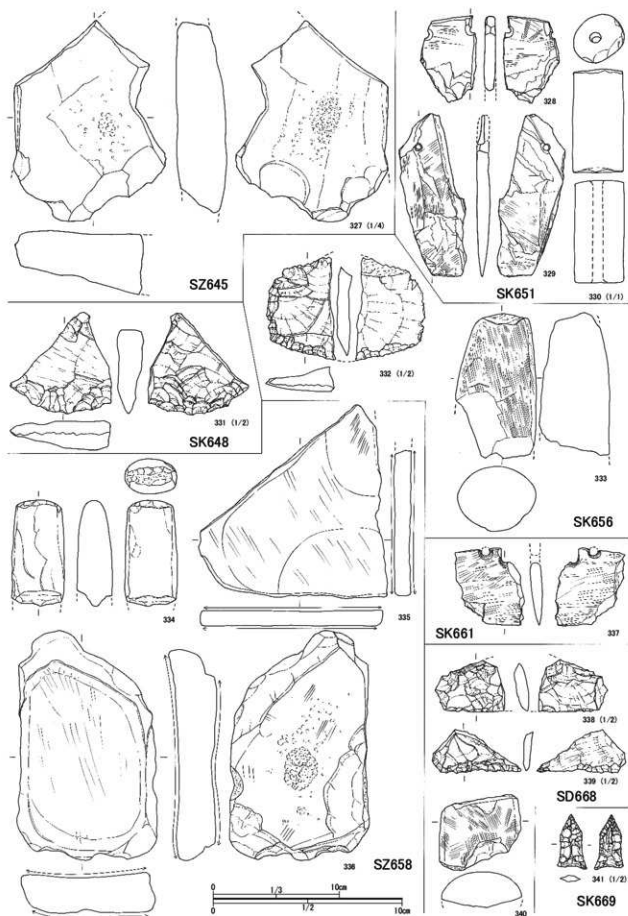
第13圖 石器・石製品実測圖(12)



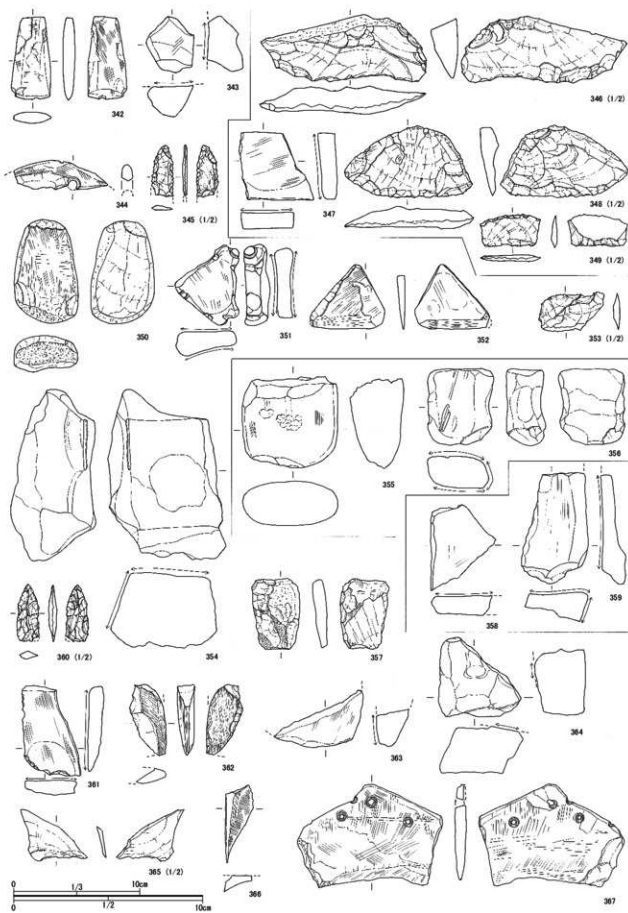
第14図 石器・石製品実測図(13)



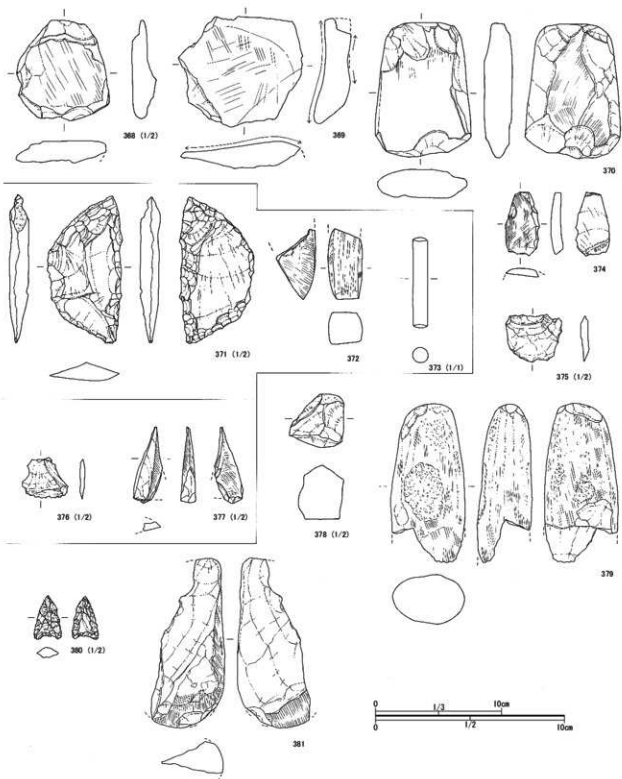
第 15 図 石器・石製品実測図 (14)



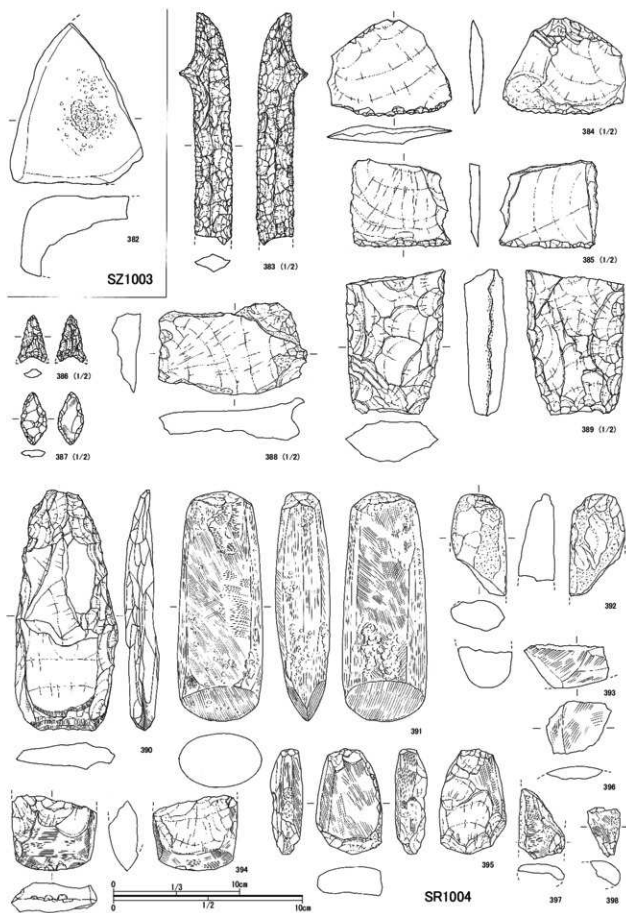
第16図 石器・石製品実測図(15)



第17図 石器・石製品実測図(16)



第18圖 石器・石製品実測図(17)

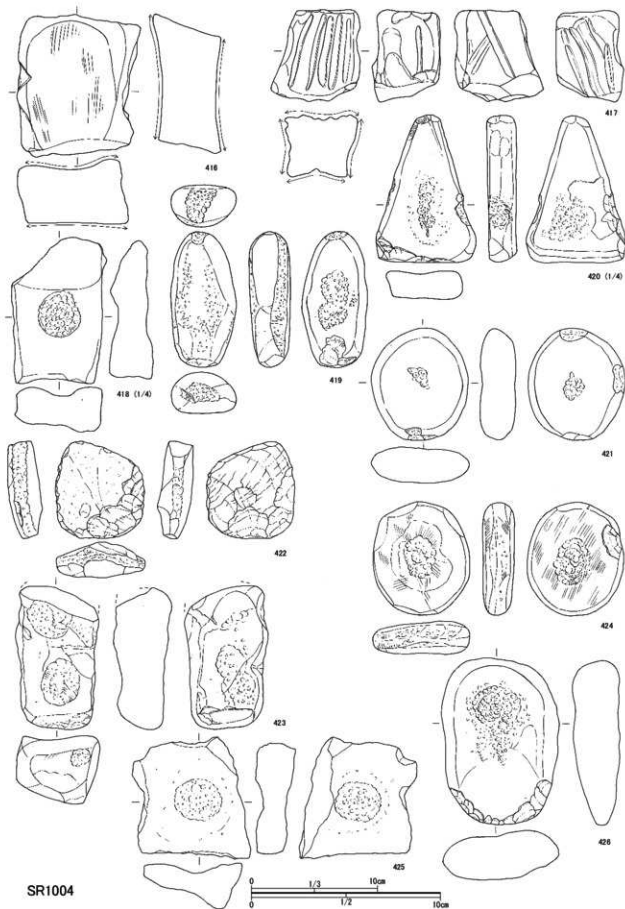


第19圖 石器・石製品実測圖(18)

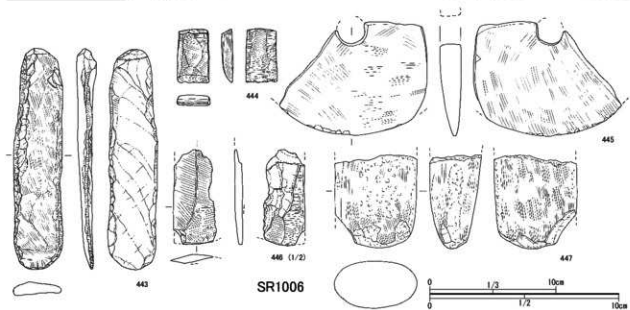
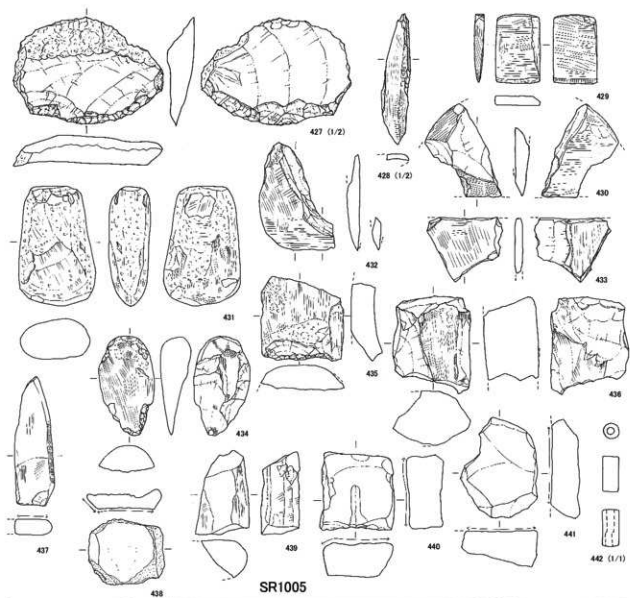


第20図 石器・石製品実測図(19)

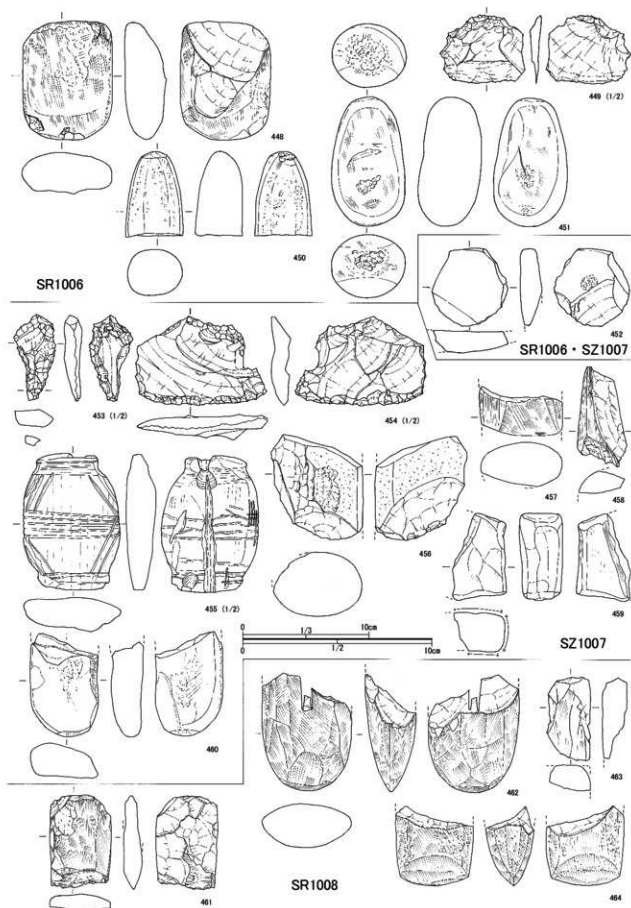




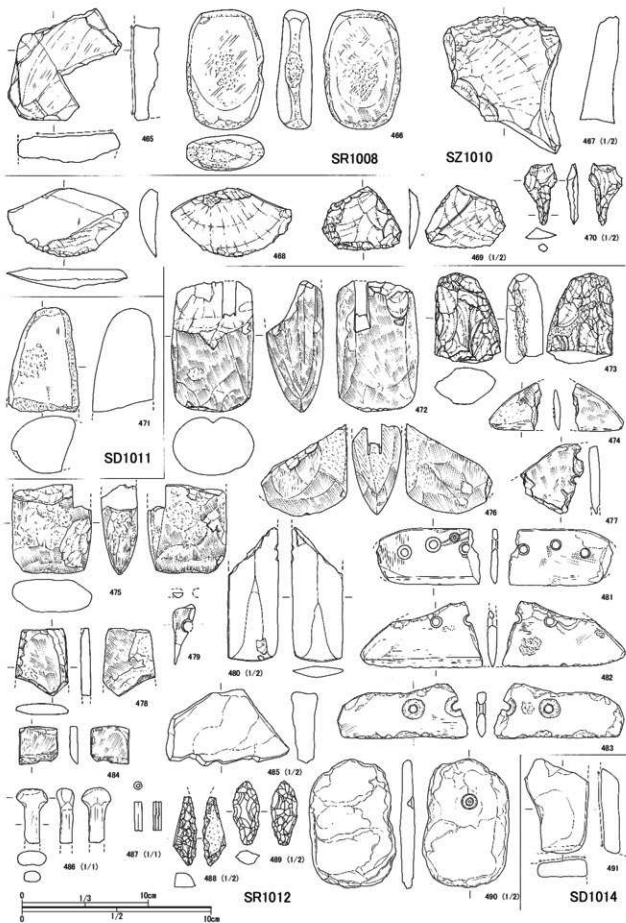
第21圖 石器・石製品実測圖 (20)



第22図 石器・石製品実測図(21)



第 23 図 石器・石製品実測図 (22)



第 24 図 石器・石製品実測図 (23)



# 報告書抄録

ふりがな	のうせいせきにーいこうしゅつどせっき・せきせいひんへんー							
書名	納所遺跡Ⅱー遺構出土石器・石製品編ー							
副書名								
巻次								
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	35-4							
編著者名	石井智大・櫻井拓馬							
編集機関	三重県埋蔵文化財センター							
所在地	〒 515-0325 三重県多気郡明和町竹川 503 TEL. 0596-52-1732							
発行年月日	西暦 2022 (令和4) 年7月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
のうせいせき 納所遺跡	つしのうさちょう 津市納所町 おきさたうら 字北浦ほか	24201	34	34° 43′ 34″	136° 29′ 25″	1973.10.16 ~ 1975.12 初旬	12,500	県道雲林院・ 津線バイパス 建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
納所遺跡	集落跡	弥生時代		旧河道・溝・竪穴 住居・方形周溝墓・ 土坑・掘立柱建物 ほか		縄文土器・弥生土器・土師 器・須恵器・木製品・石器・ 石製品ほか		
要約	伊勢湾西岸地域を代表する弥生時代遺跡。弥生時代全時期を通じて遺構・遺物が確認され、中でも前期と中期中葉～後葉のものが多い。石器・石製品も様々な種類のものが多数出土しており、本書ではそのうち遺構から出土したものについて報告した。							

三重県埋蔵文化財調査報告 35-4

(研究紀要 第26号)

納所遺跡Ⅱー遺構出土石器・石製品編ー

2022年7月

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター